

秋田県沖合域の水温状況 (平成21年4月)

調査船「千秋丸」と「第二千秋丸」が4月7～9日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

表 層 (P2) 水温は9.0～10.7℃の範囲にあり、県北部を除いたSt. 1～13までの定点では「やや高い」～「かなり高い」となっています。

50 m層 (P3) 水温は8.5～9.9℃の範囲にあり、全体的に「やや高い」となっています。

100m層 (P4) 水温は6.3～9.8℃の範囲にあり、男鹿半島沖のSt. 4～7付近で「かなり高い」～「はなはだ高い」となっています。

200m層 (P5) 水温は2.3～9.4℃の範囲にあります。St. 2～4付近に暖水域がみられ、水温も「はなはだ高い」となっています。

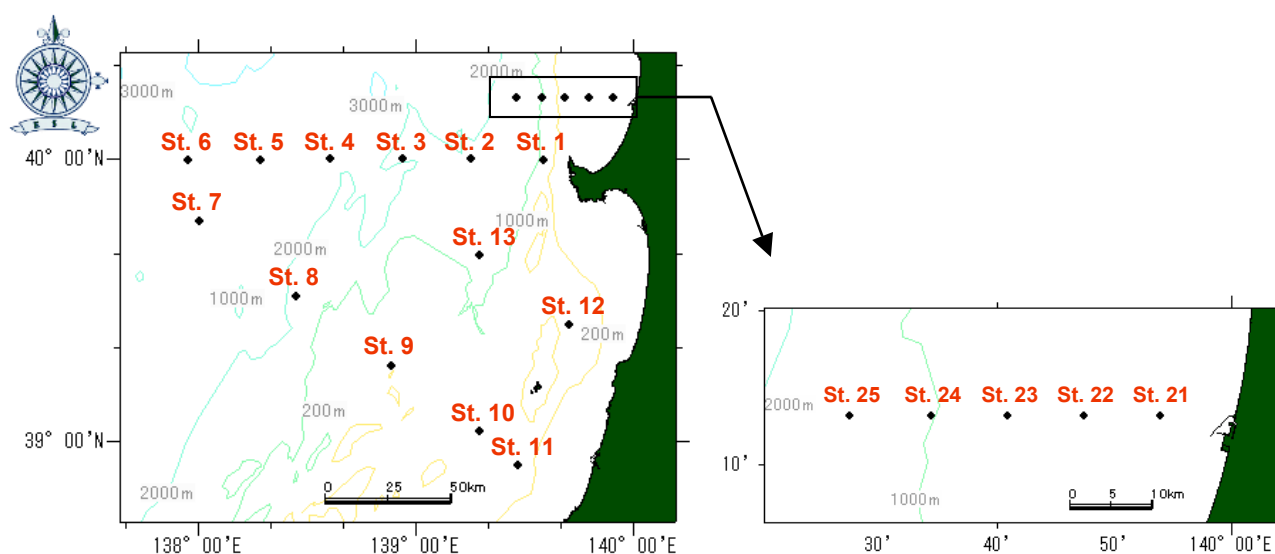


図1 調査船千秋丸 (St. 1～13) 及び第二千秋丸 (St. 21～25) による観測定点

表1 水温の評価方法

評価	偏差*
● はなはだ高い	+200以上 (出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200 (出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131 (出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61 (出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131 (出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200 (出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下 (出現確率約20年以上に1回)

* 偏差 = (今月の観測値 - 平年値) / 標準偏差 × 100
ただし、平年値はSt. 1～13が1971～2000年まで、
St. 21～25が1978年～2000年までの平均値

<表層>

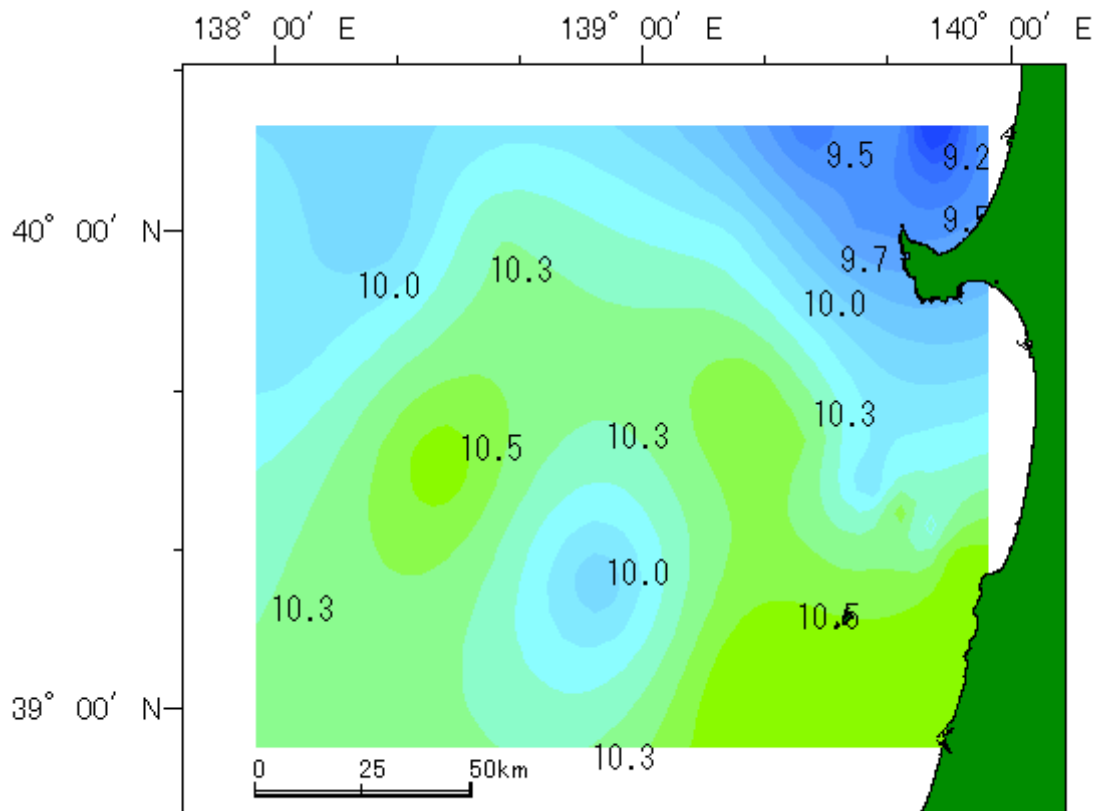


図2 表層の水温分布

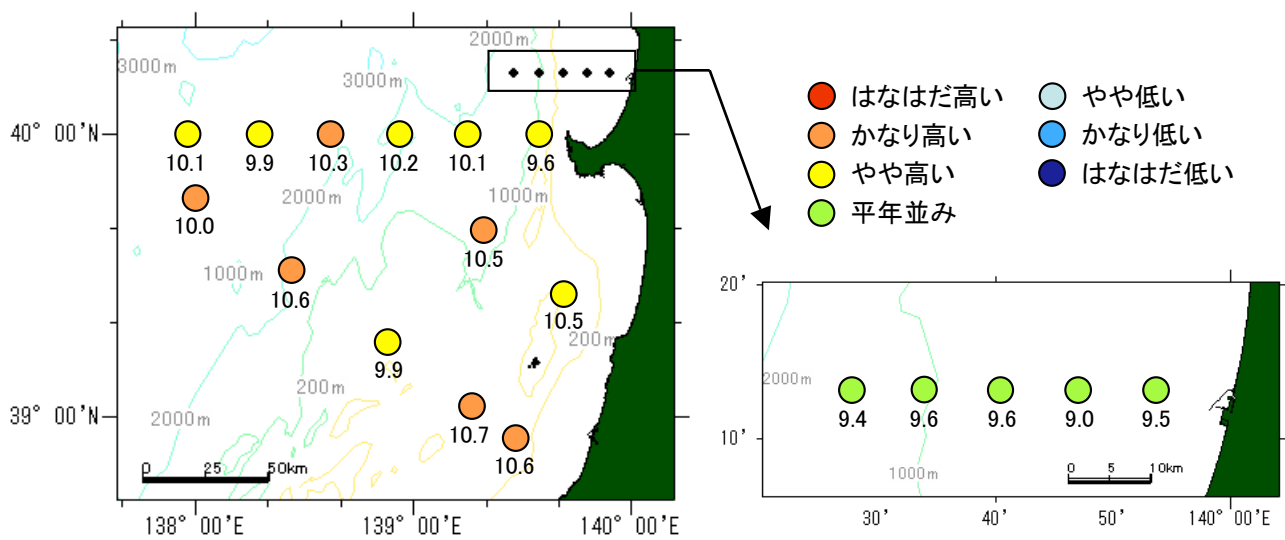


図3 表層の水温評価と観測値(°C)

<50m層>

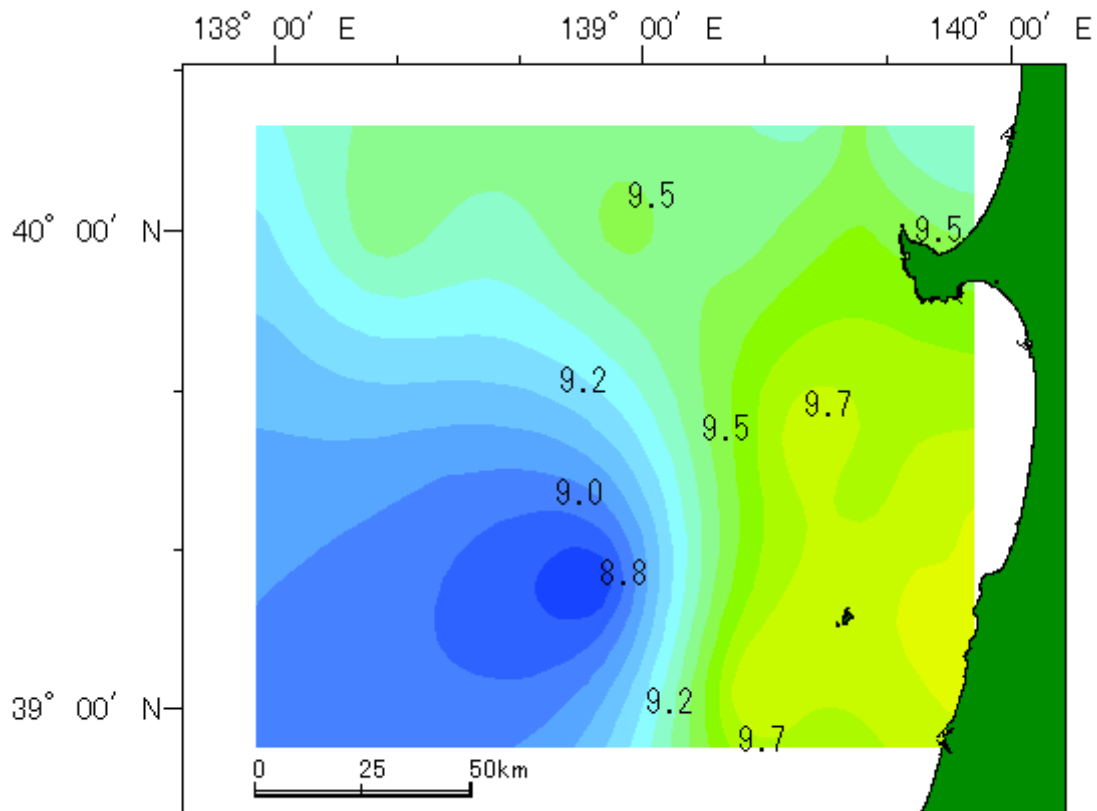


図4 水深50m層の水温分布

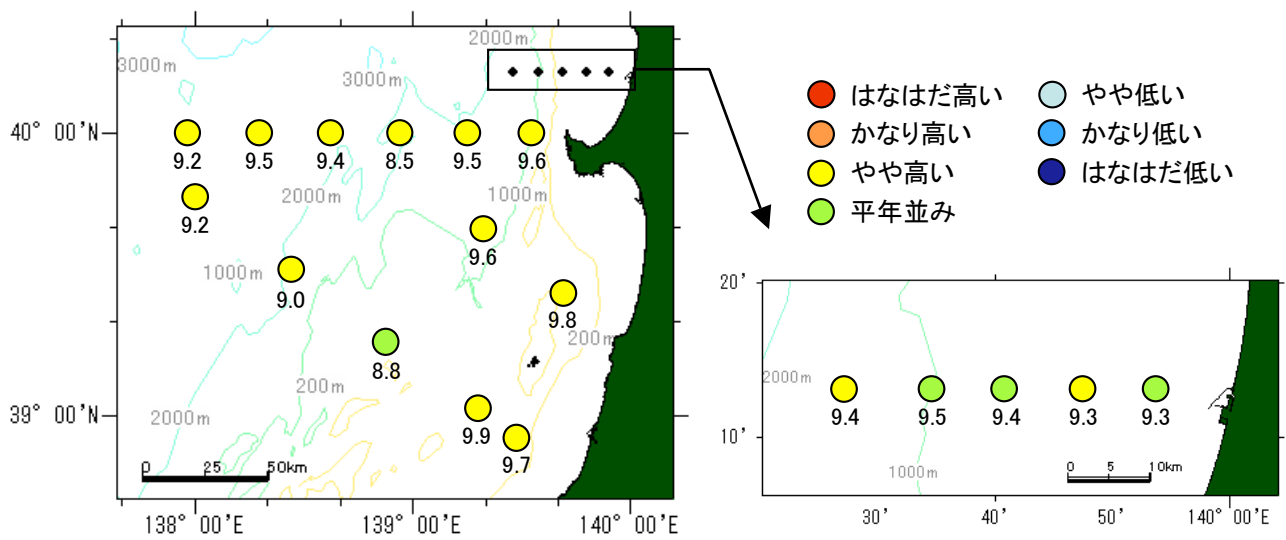


図5 水深50m層の水温評価と観測値(°C)

<100m層>

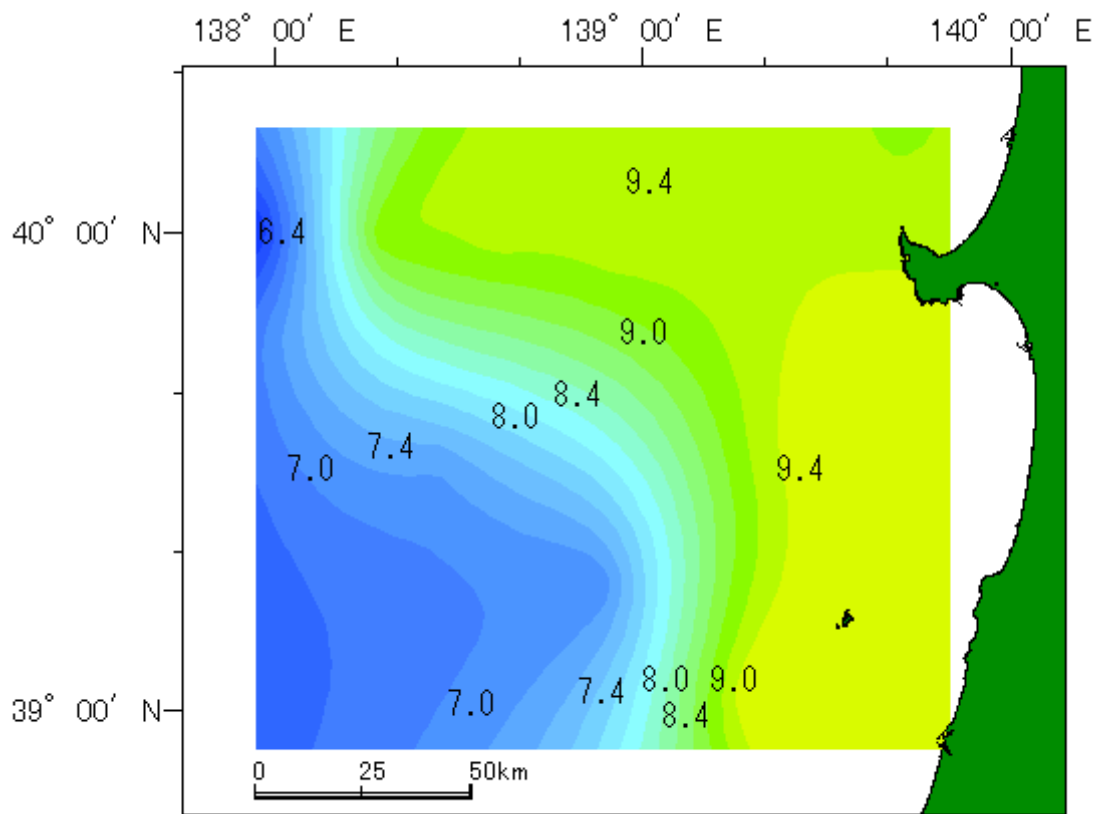


図6 水深100m層の水温分布

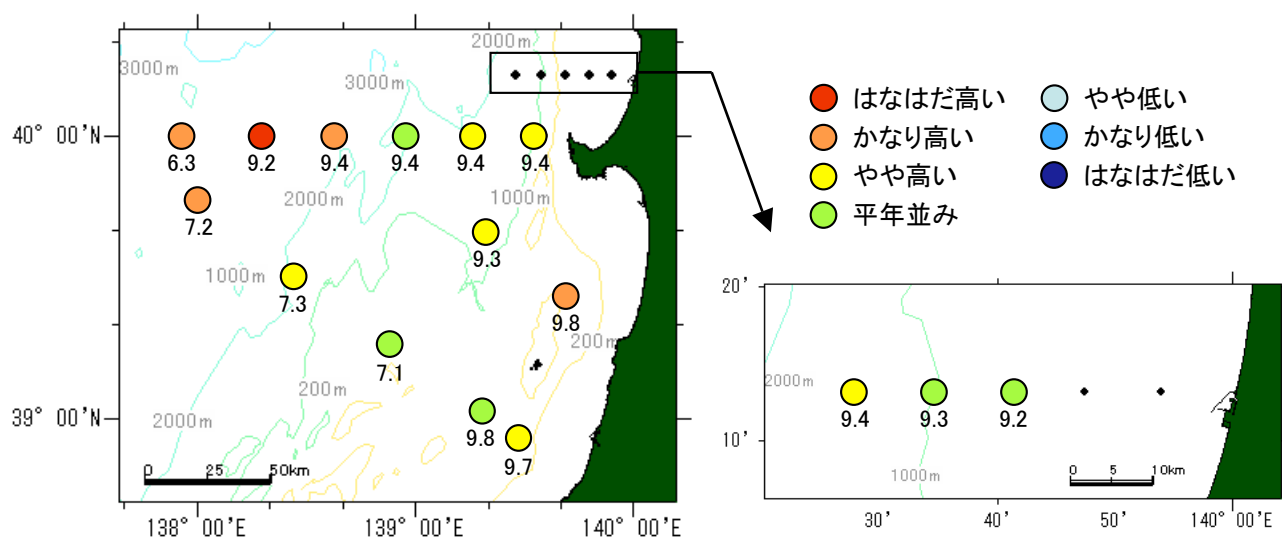


図7 水深100m層の水温評価と観測値(°C)

<200m層>

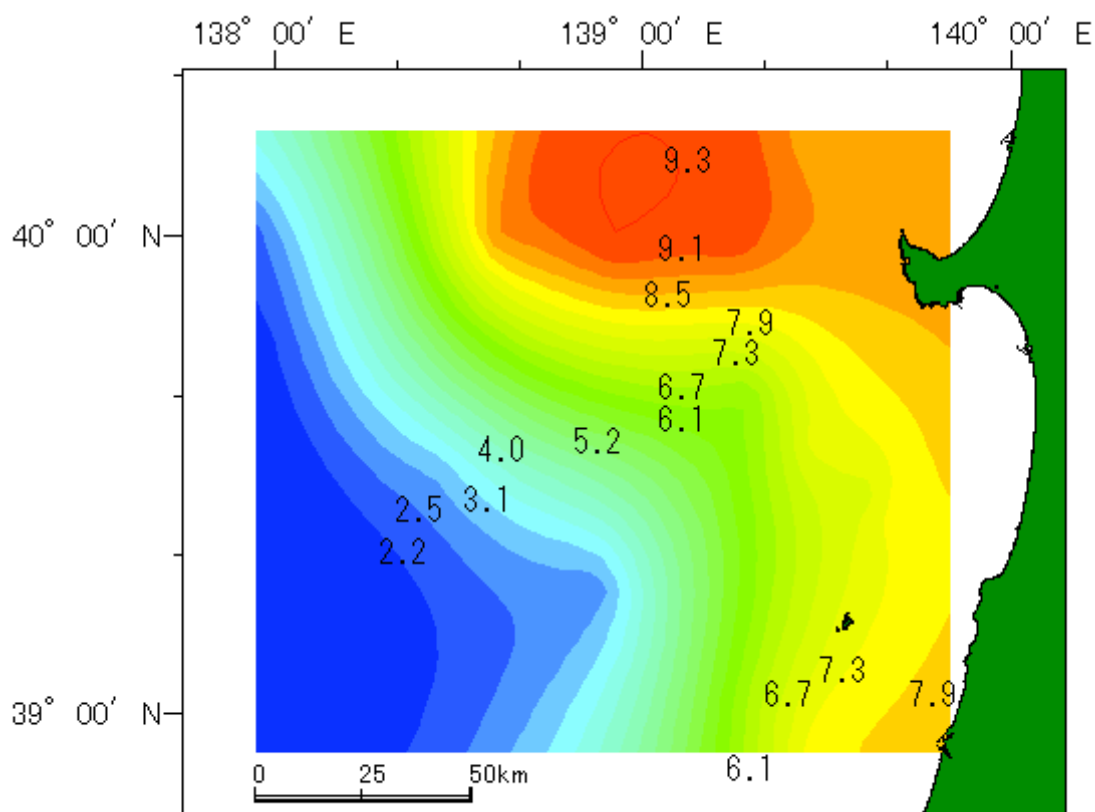


図8 水深200m層の水温分布

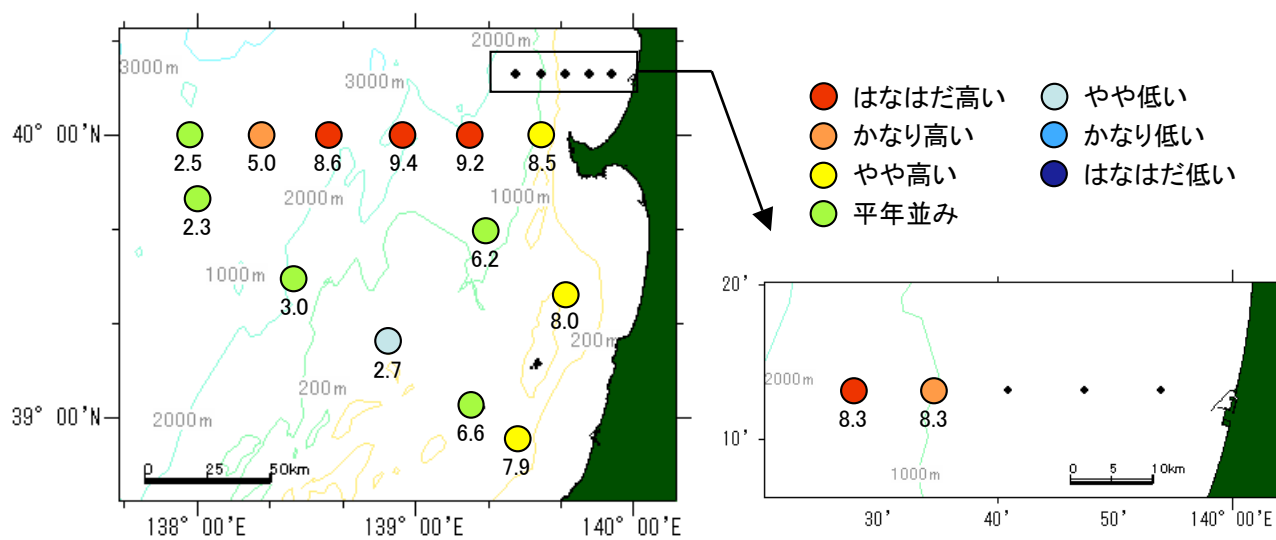


図9 水深200m層の水温評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成21年5月)

調査船「千秋丸」と「第二千秋丸」が4月28日、30日及び5月1日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

- 表 層 (P2) 水温は9.3～12.4℃の範囲にあり、県北部 (St. 21～25) で「やや低い」となっています。
- 50 m層 (P3) 水温は4.1～10.9℃の範囲にあり、県南部の沿岸域 (St. 11～12) では「かなり高い」となっています。また、男鹿半島西沖 (St. 5～6) に冷水域がみられます。
- 100m層 (P4) 水温は2.6～10.3℃の範囲にあり、男鹿半島西沖 (St. 5～6) に冷水域がみられます。
- 200m層 (P5) 水温は1.3～9.3℃の範囲に、男鹿半島西沖 (St. 4～7) に冷水域がみられます。

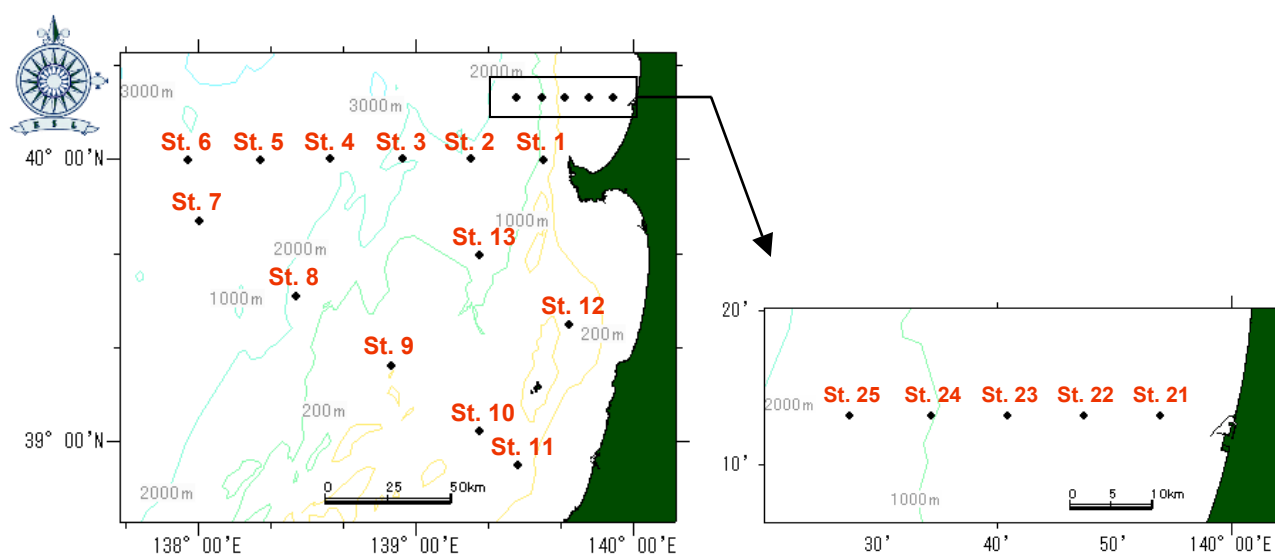


図1 調査船千秋丸 (St. 1～13) 及び第二千秋丸 (St. 21～25) による観測定点

表1 水温の評価方法

評価	偏差*
● はなはだ高い	+200以上 (出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200 (出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131 (出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61 (出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131 (出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200 (出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下 (出現確率約20年以上に1回)

* 偏差 = (今月の観測値 - 平年値) / 標準偏差 × 100
ただし、平年値は St. 1～13 が 1971～2000 年まで、
St. 21～25 が 1978 年～2000 年までの平均値

<表層>

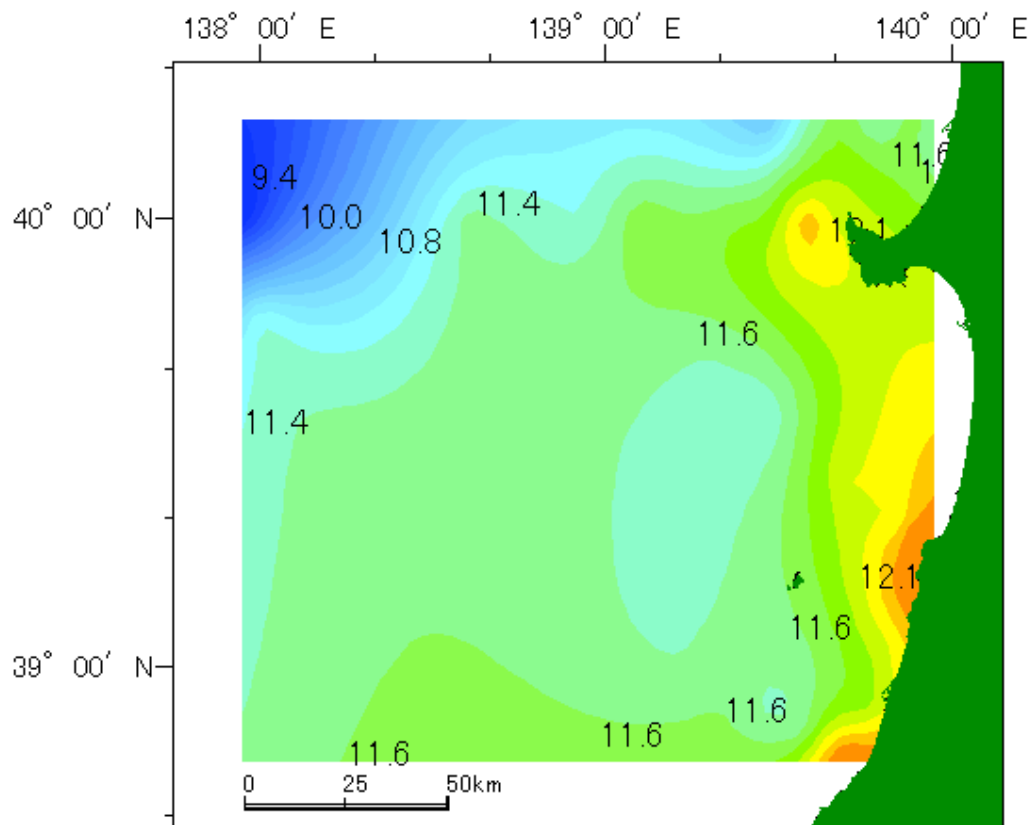


図2 表層の水温分布

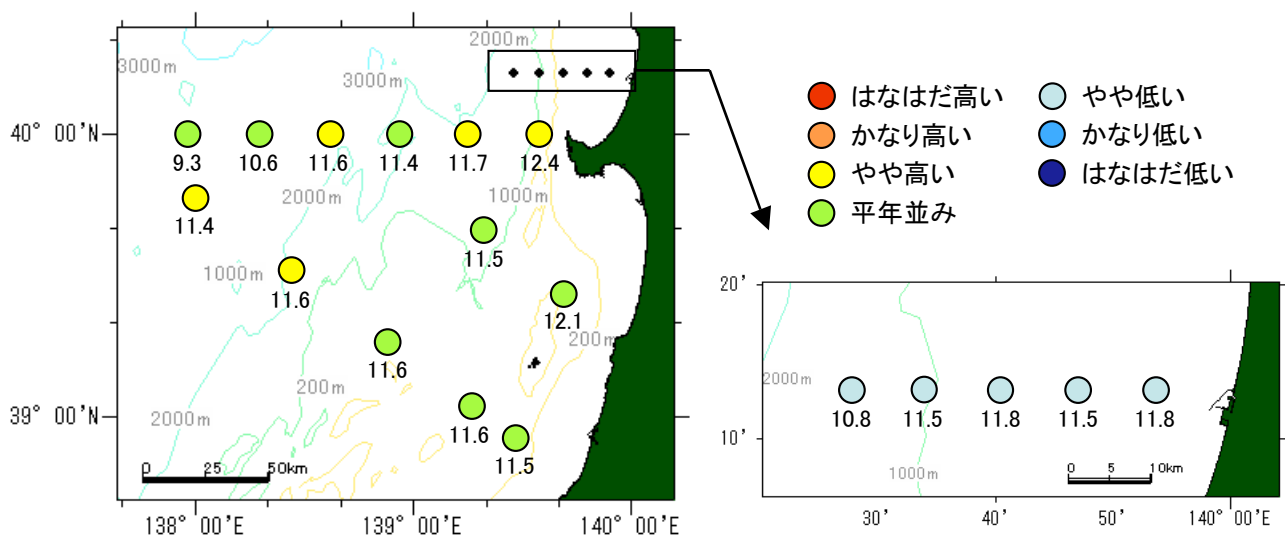


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

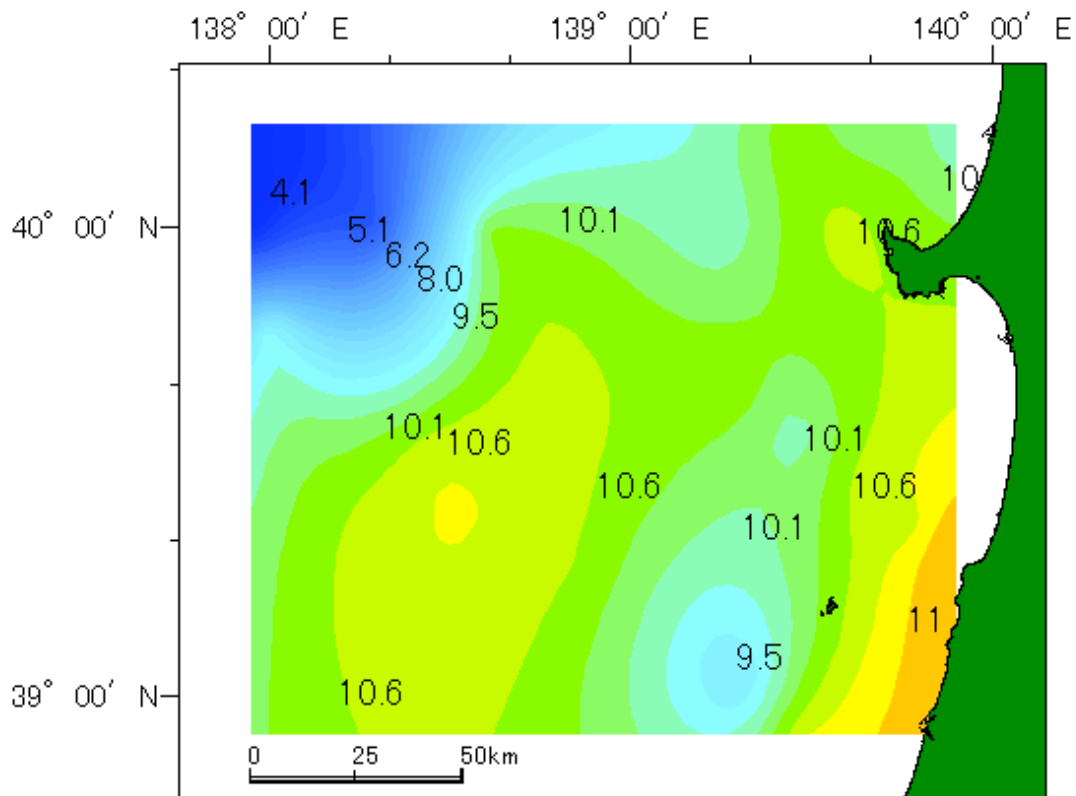


図4 水深50m層の水温分布

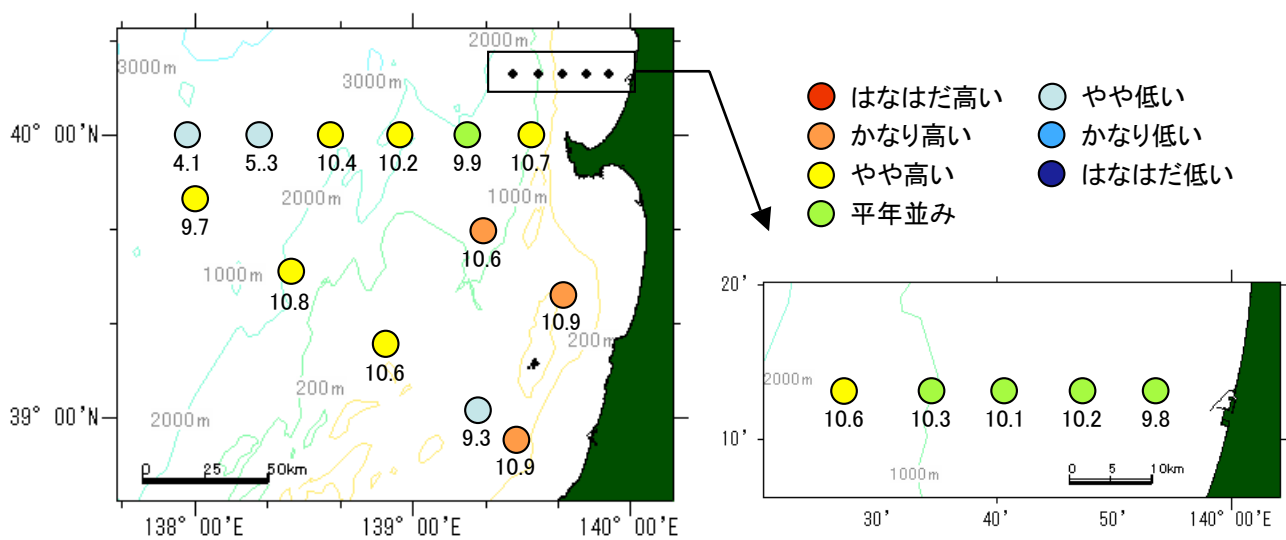


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

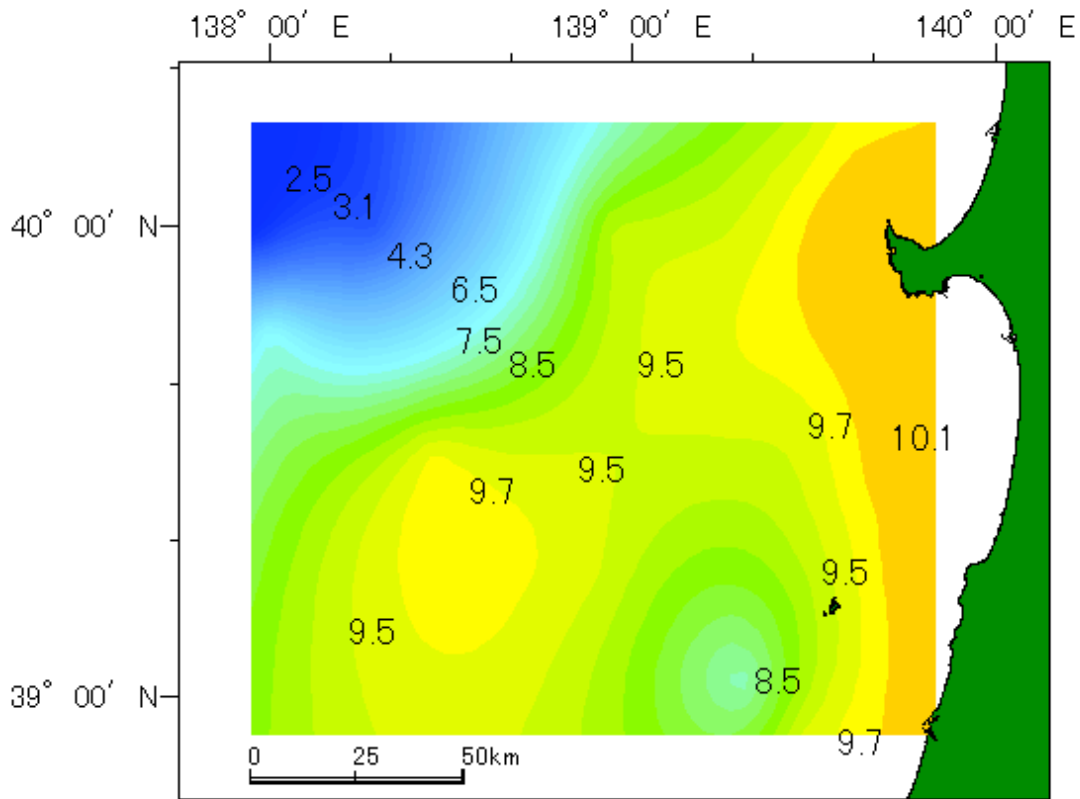


図6 水深100m層の水温分布

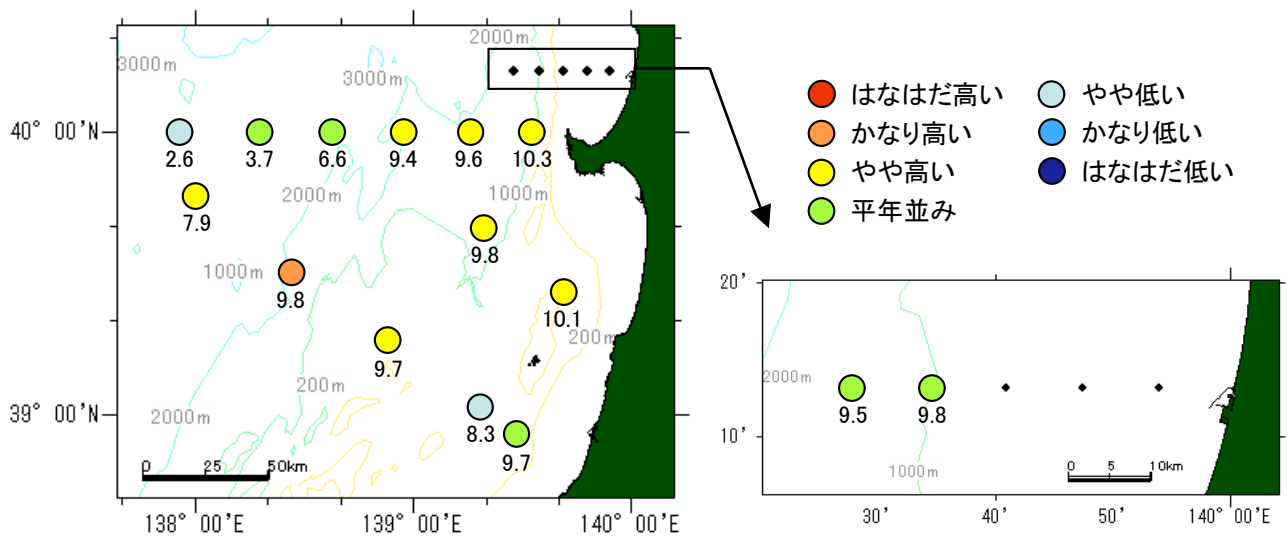


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

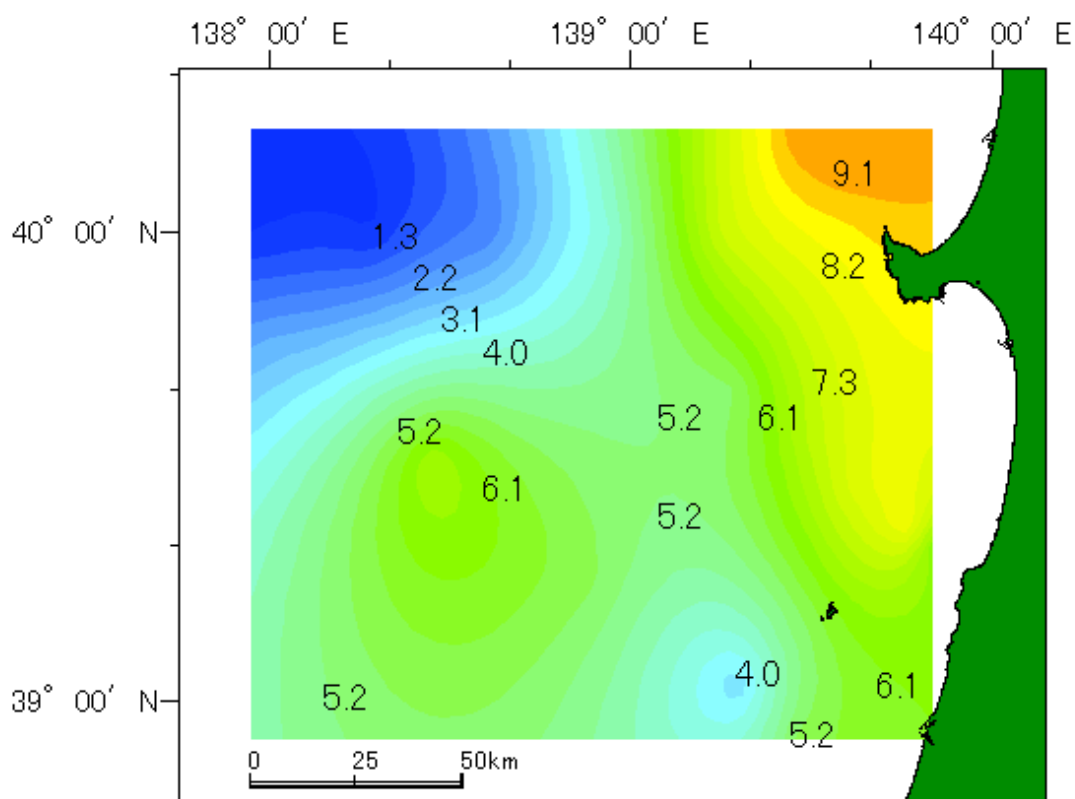


図8 水深200m層の水温分布

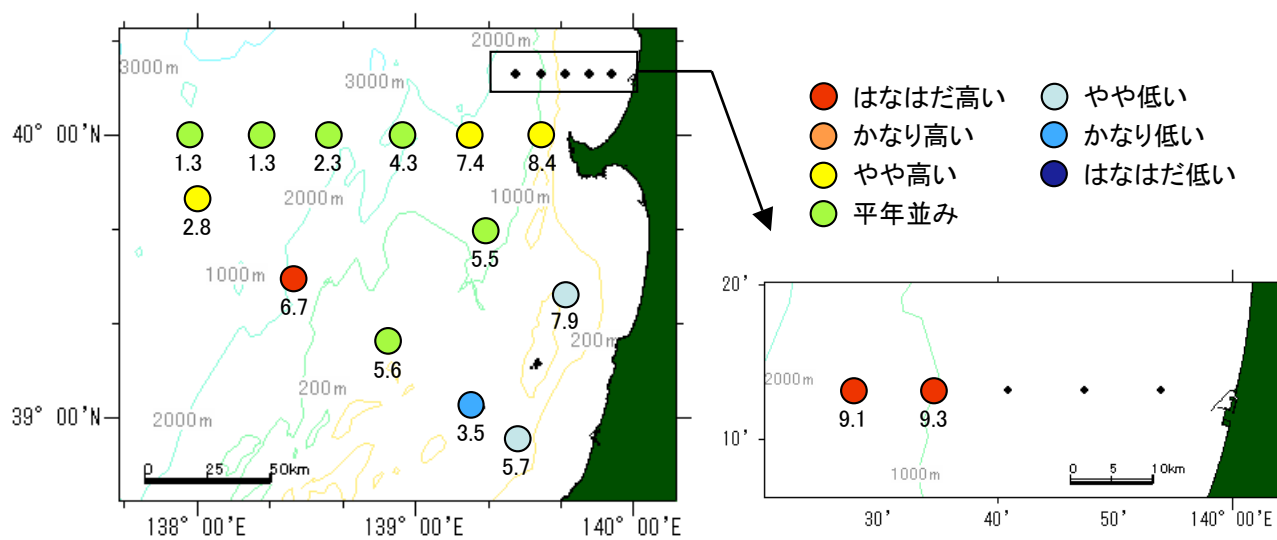


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成21年6月)

調査船「千秋丸」と「第二千秋丸」が5月28日、29日及び6月2日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

表 層(P2) 水温は11.8～17.8℃の範囲にあります。男鹿半島西沖(St. 5～6)に冷水域がみられます。

50 m層(P3) 水温は7.0～13.6℃の範囲にあります。男鹿半島西沖(St. 5～6)には、5月に引き続き冷水域がみられます。

100m層(P4) 水温は4.3～11.5℃の範囲にあります。男鹿半島西沖(St. 5～7)には、5月に引き続き冷水域がみられます。

200m層(P5) 水温は1.8～9.1℃の範囲にあり、全体的に「平年並み」～「かなり低い」となっています。

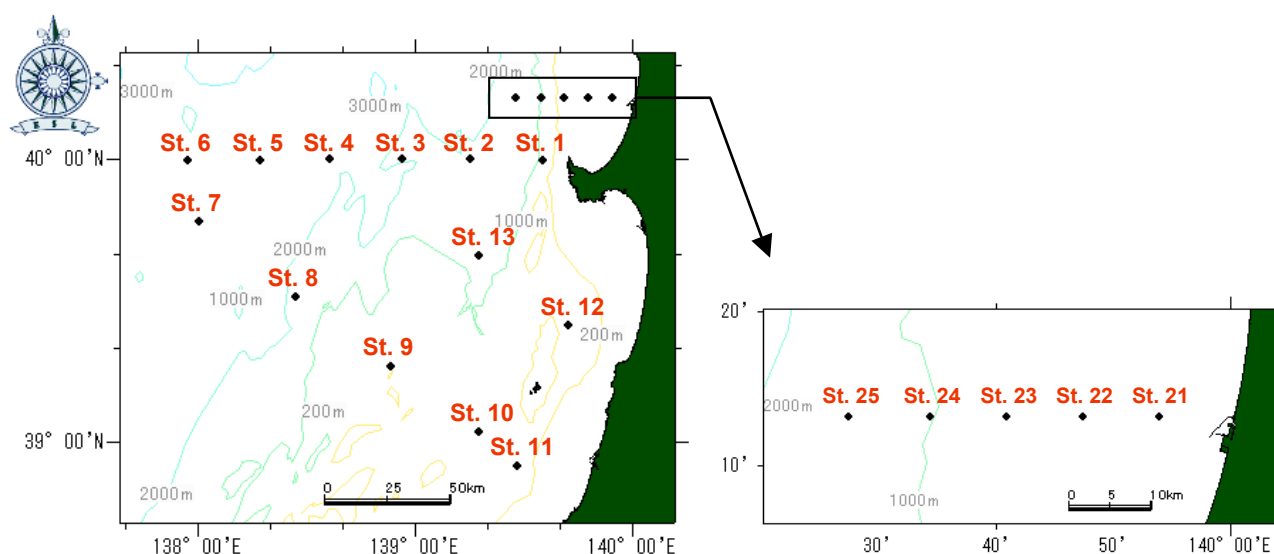


図1 調査船千秋丸(St. 1～13)及び第二千秋丸(St. 21～25)による観測定点

表1 水温の評価方法

評価	偏差*
● はなはだ高い	+200以上 (出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200 (出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131 (出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61 (出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131 (出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200 (出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下 (出現確率約20年以上に1回)

* 偏差=(今月の観測値-平年値)/標準偏差×100
ただし、平年値はSt. 1～13が1971～2000年まで、
St. 21～25が1978年～2000年までの平均値

<表層>

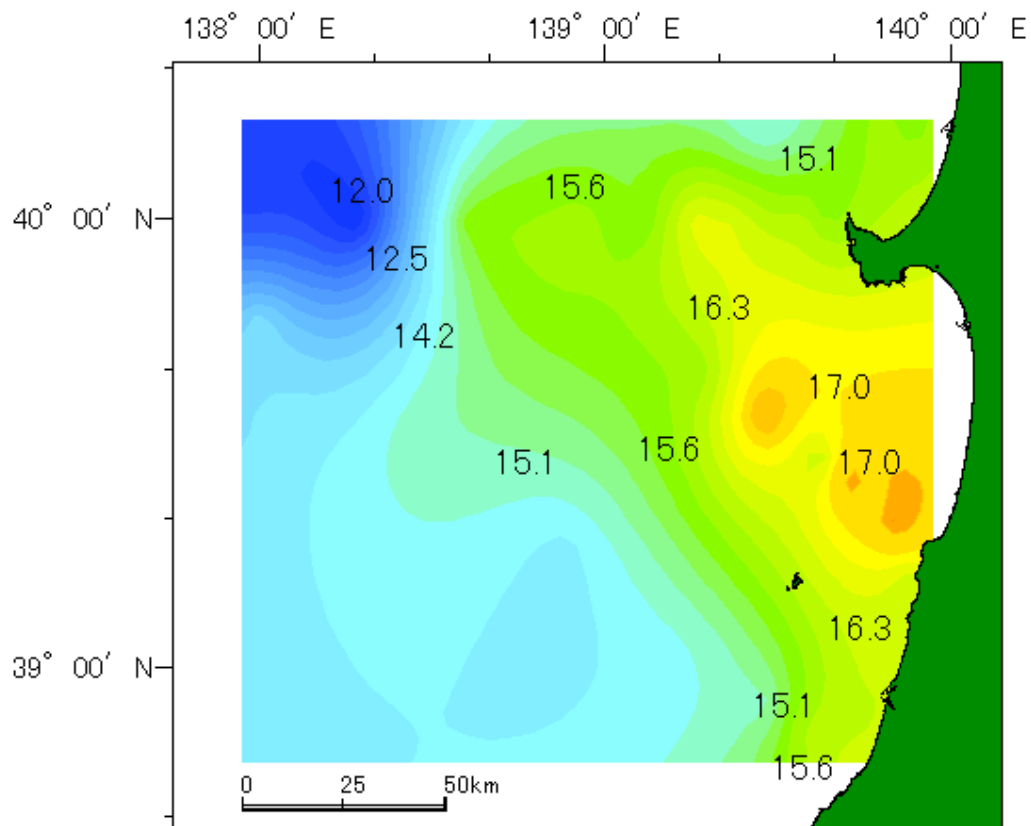


図2 表層の水温分布

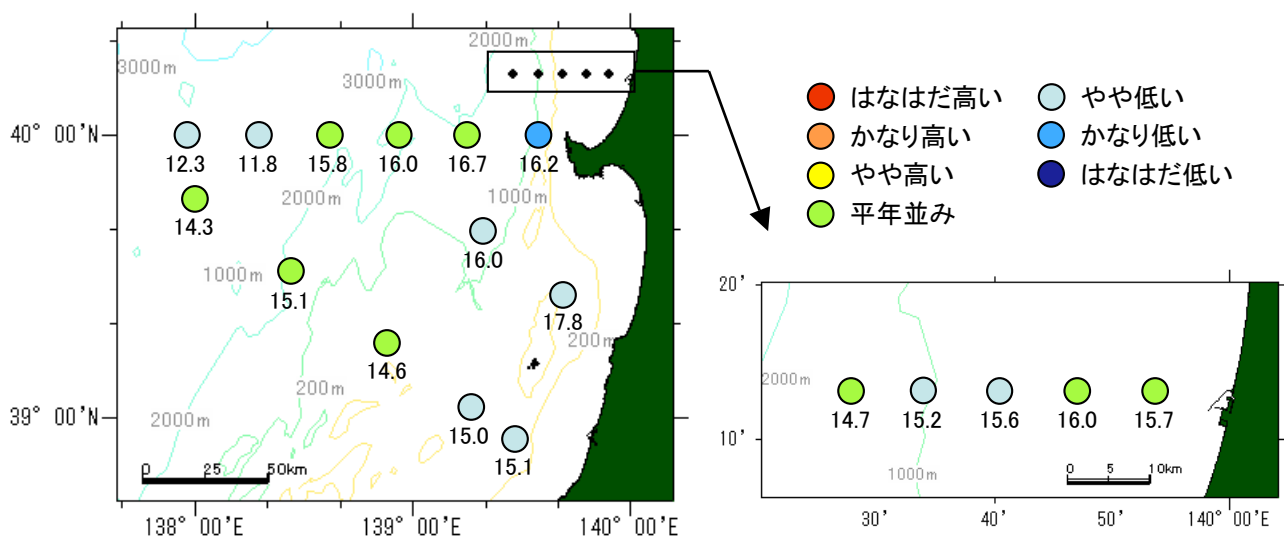


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

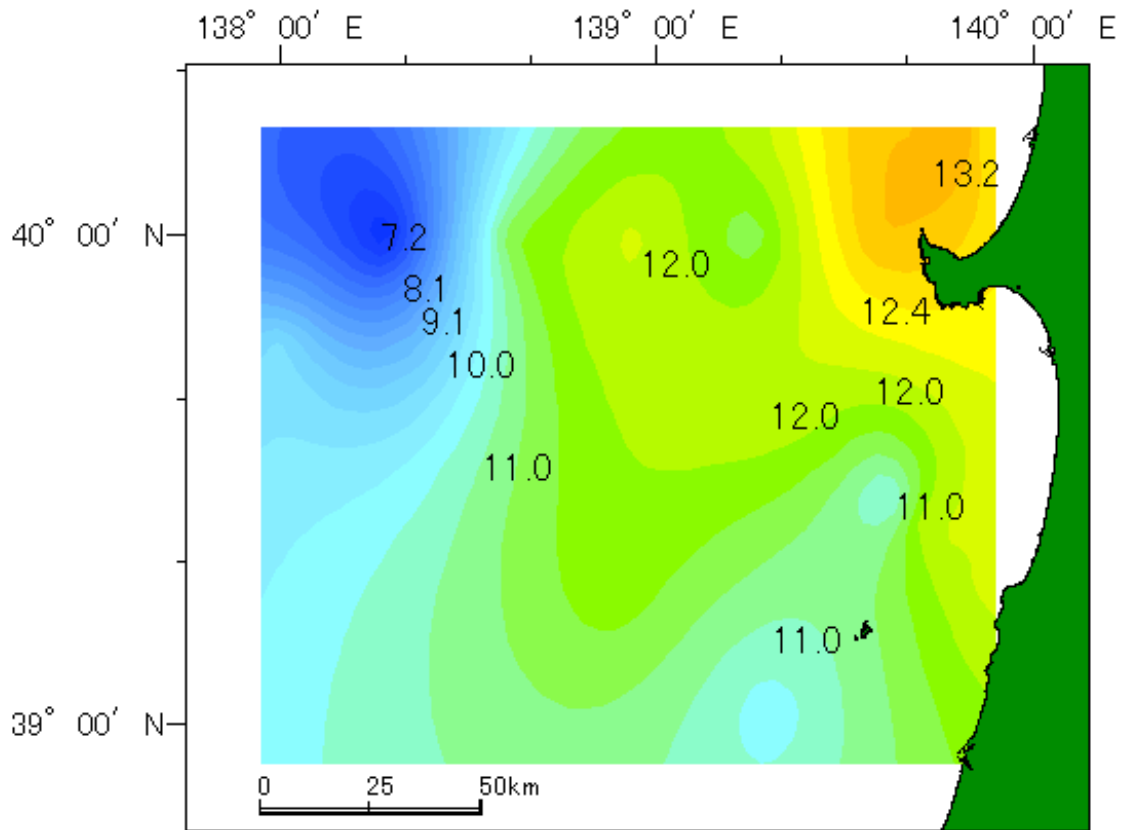


図4 水深50m層の水温分布

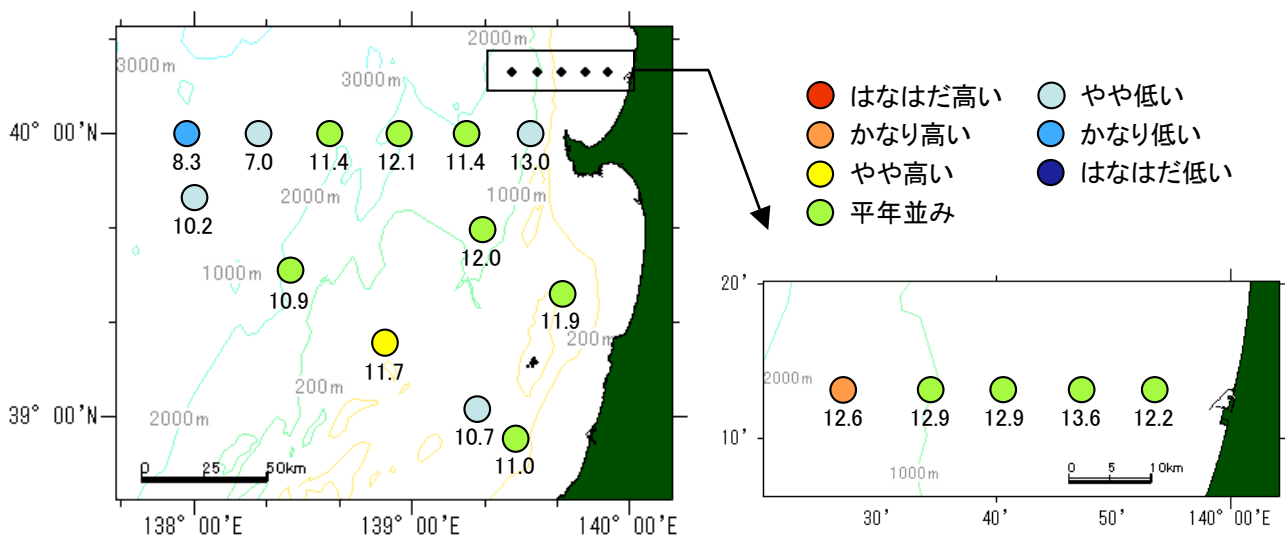


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

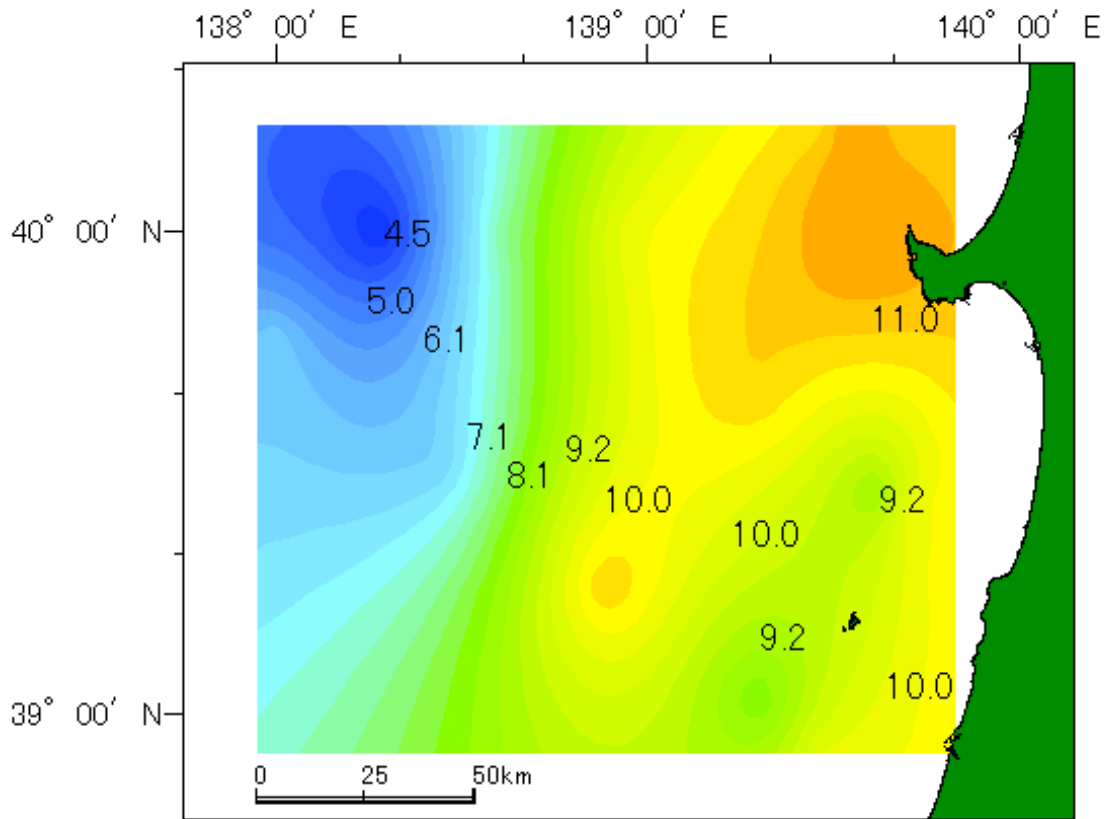


図6 水深100m層の水温分布

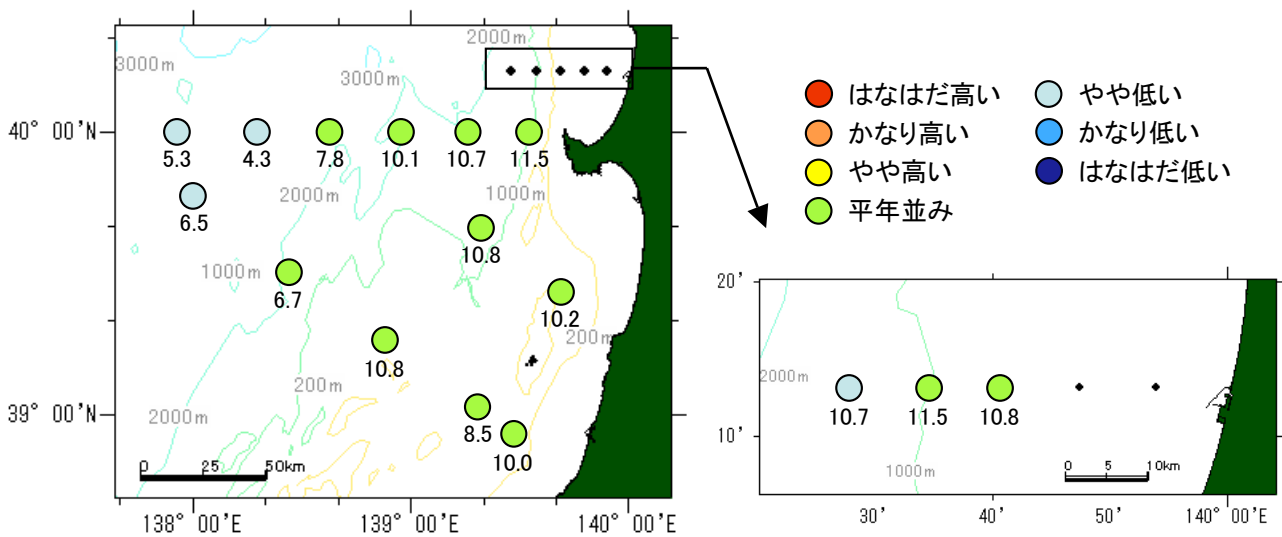


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

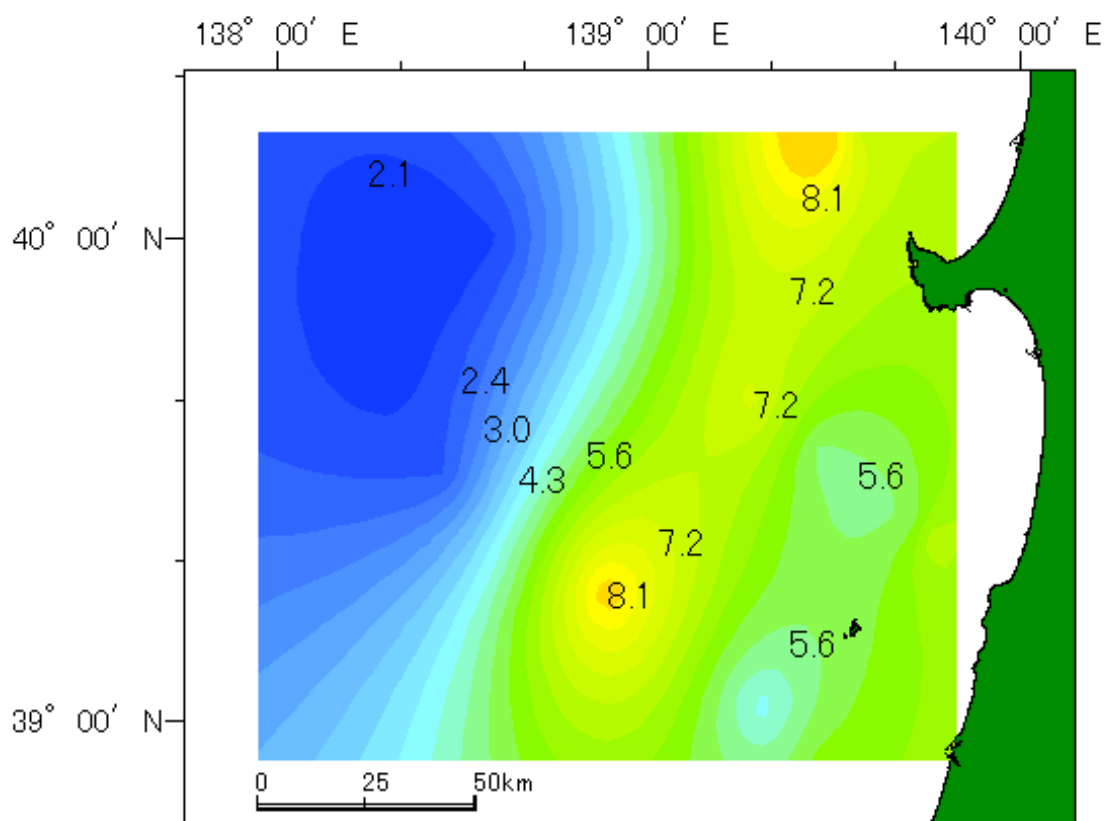


図8 水深200m層の水温分布

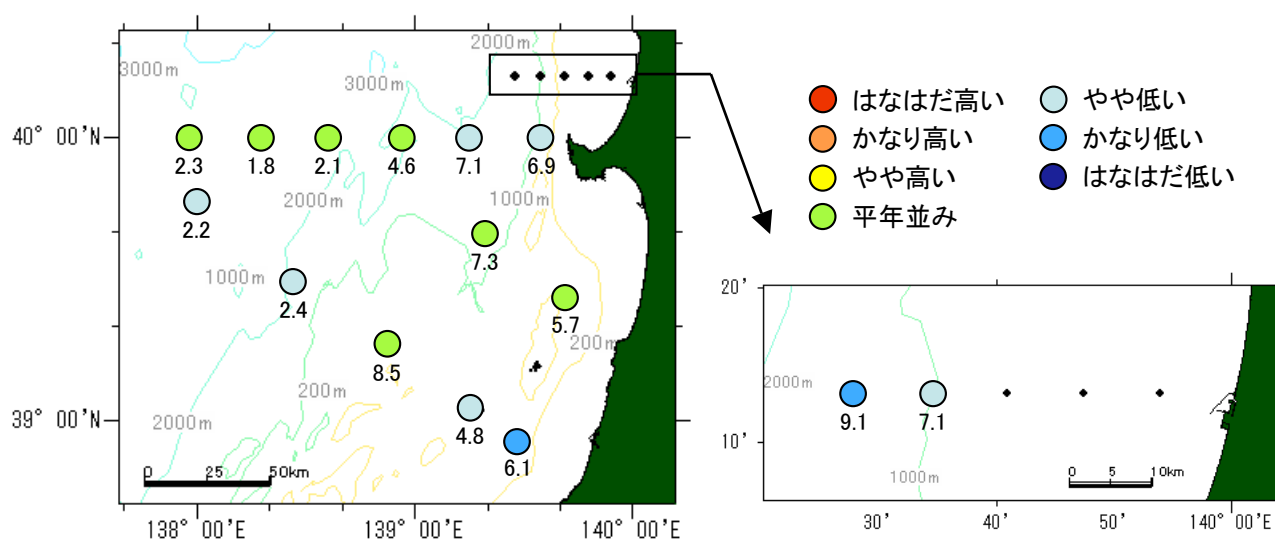


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成21年9月)

調査船「千秋丸」が9月8～9日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

表 層(P2) 水温は22.7～23.9℃の範囲にあります。沿岸域の定点(St. 1、11及び12)で「かなり低め」となっています。

50 m層(P3) 水温は13.2～19.4℃の範囲にあります。男鹿半島西沖(St. 4～5)に冷水域がみられます。

100m層(P4) 水温は3.6～13.9℃の範囲にあります。男鹿半島西沖(St. 5付近)に冷水域がみられます。

200m層(P5) 水温は1.3～7.2℃の範囲にあります。男鹿半島西沖(St. 2付近)に暖水域がみられます。

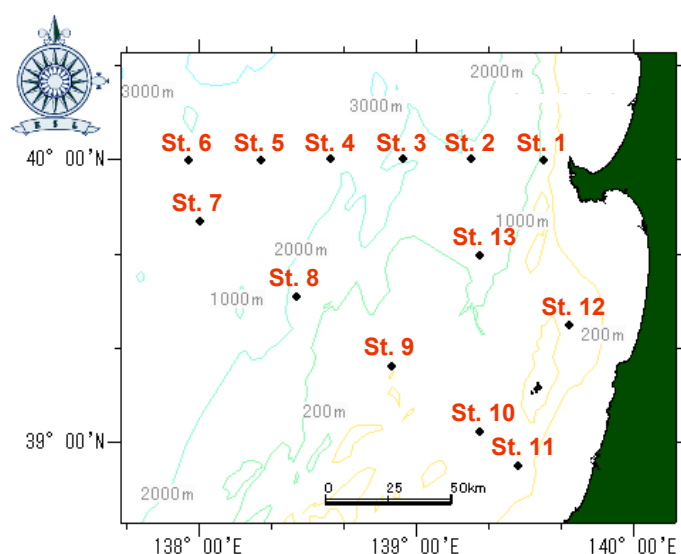


図1 調査船千秋丸による観測定点(St. 1～13)

表1 水温の評価方法

評価	偏差*	
● はなはだ高い	+200以上	(出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200	(出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131	(出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61	(出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131	(出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200	(出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下	(出現確率約20年以上に1回)

* 偏差=(今月の観測値-平年値)/標準偏差×100
ただし、平年値はSt. 1～13が1971～2000年まで、
St. 21～25が1978年～2000年までの平均値

<表層>

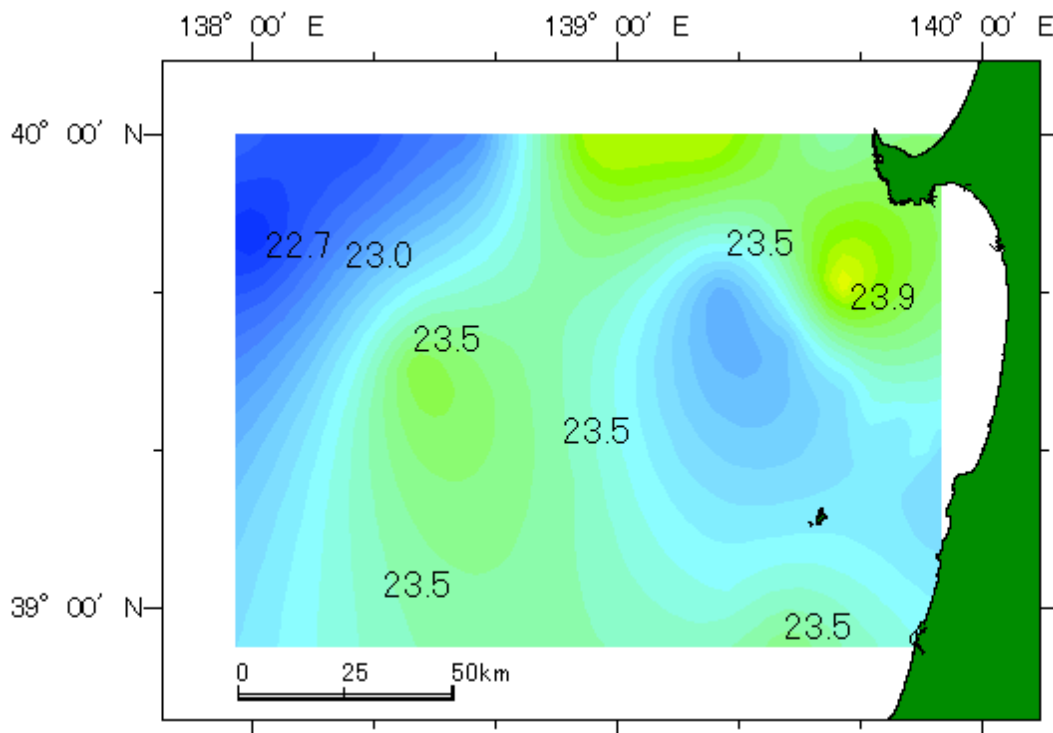


図2 表層の水温分布

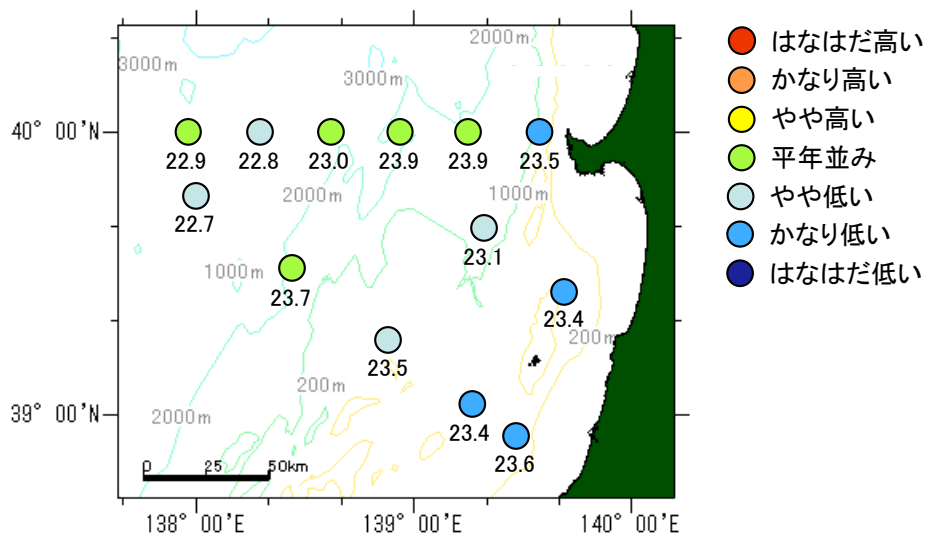


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

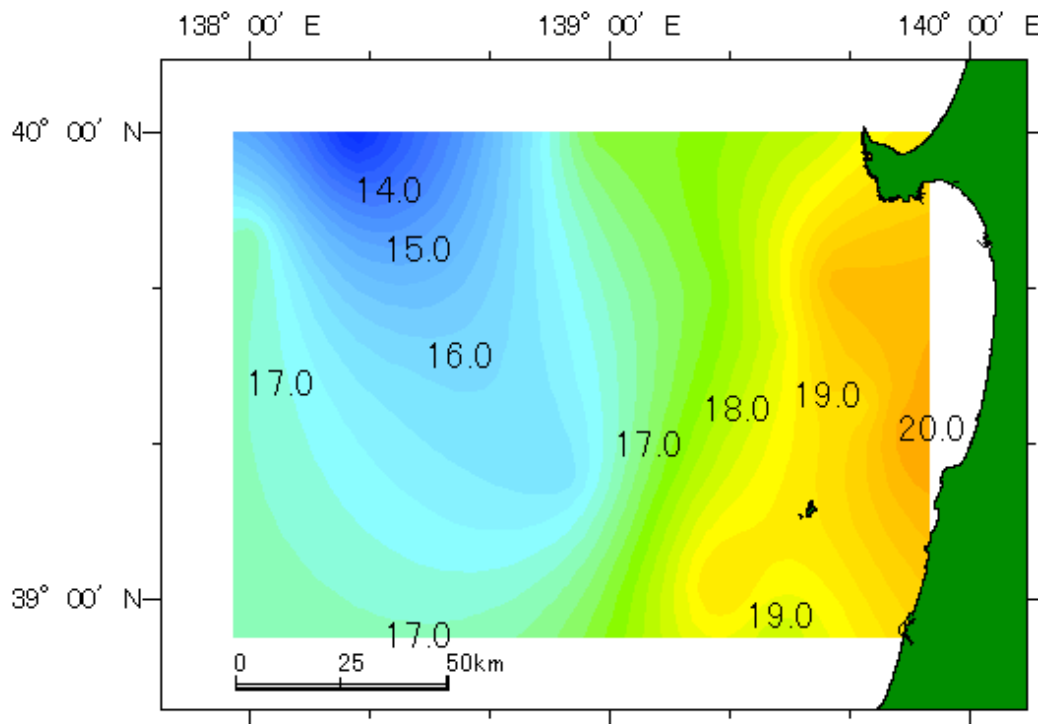


図4 水深50m層の水温分布

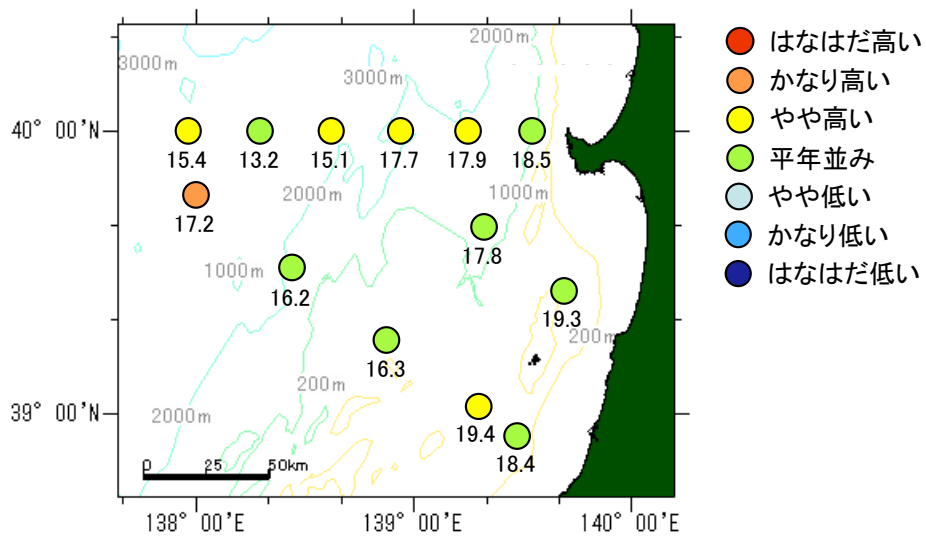


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

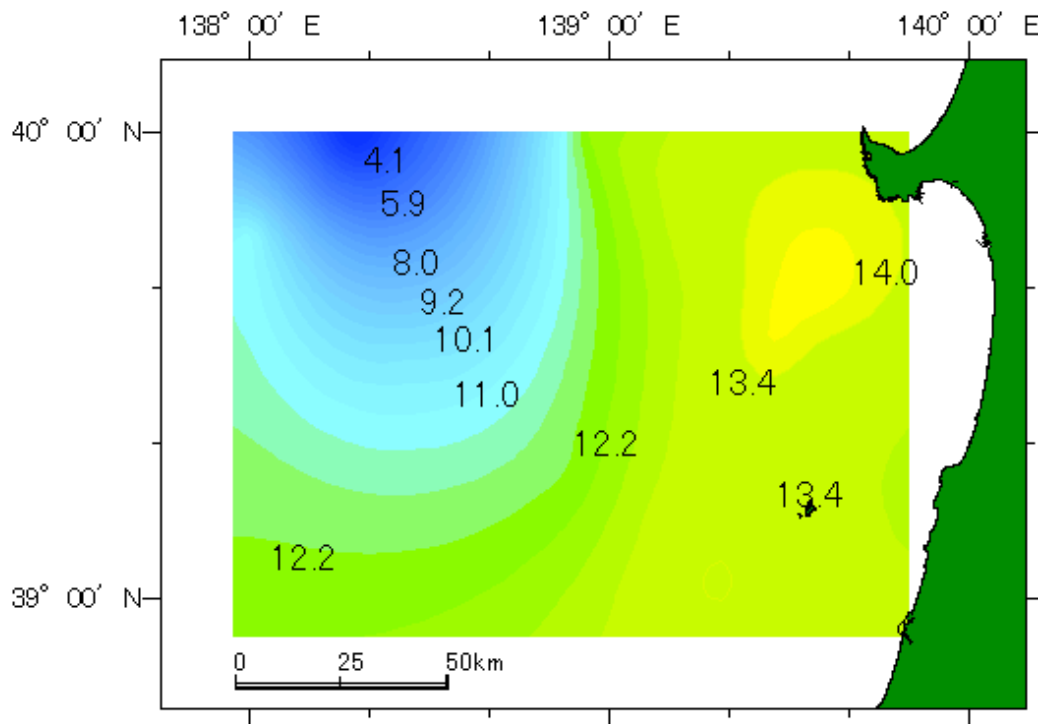


図6 水深100m層の水温分布

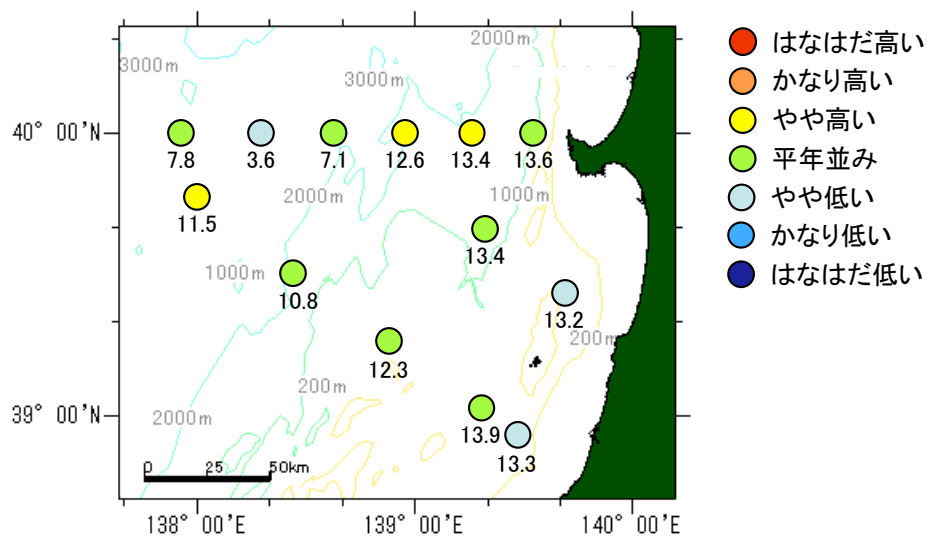


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

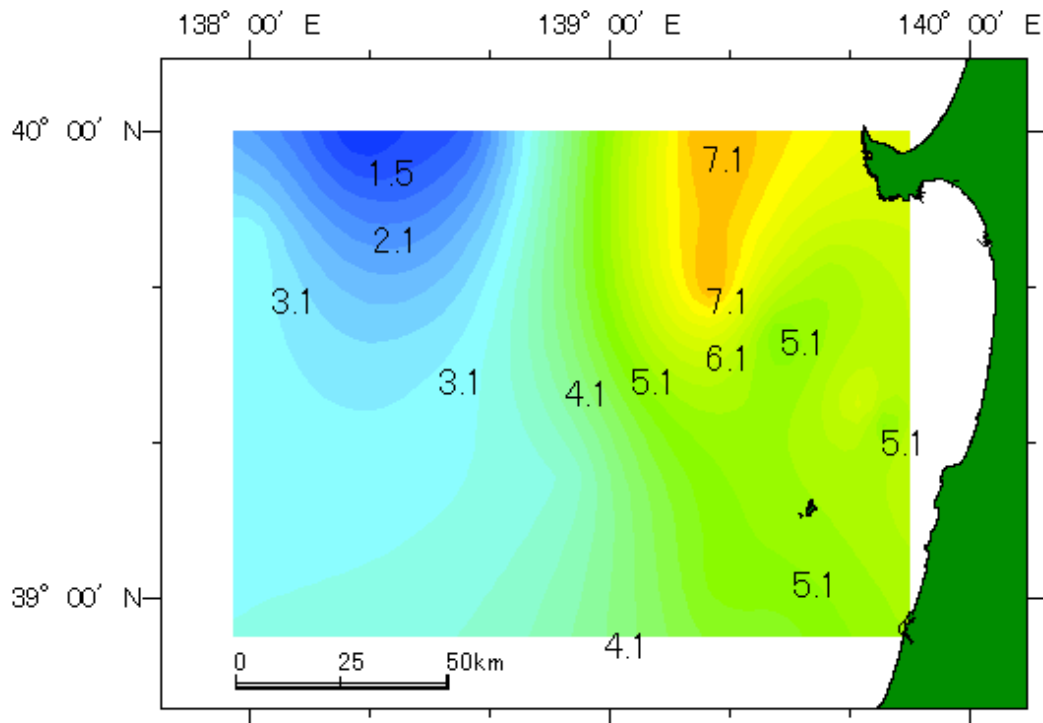


図8 水深200m層の水温分布

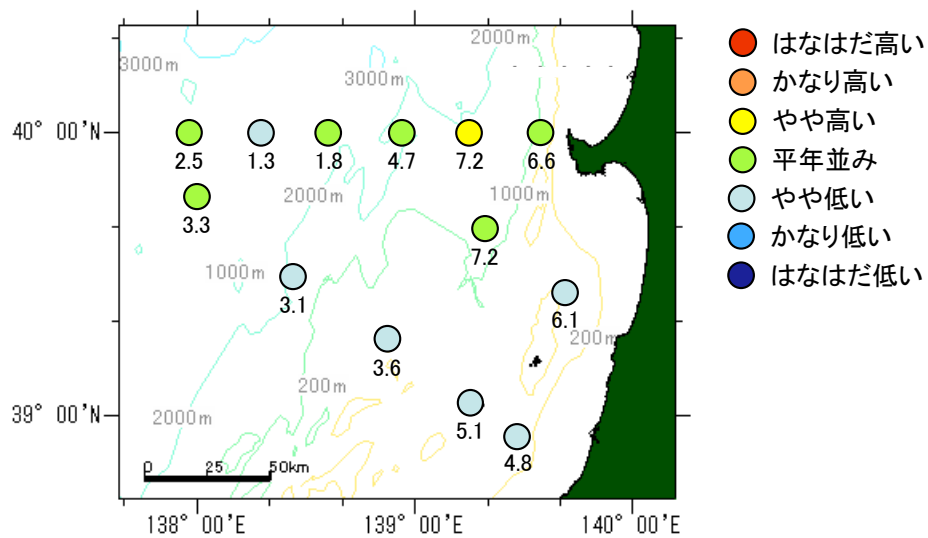


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成21年10月)

調査船「千秋丸」が10月1～2日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

- 表 層 (P2) 水温は21.4～22.5℃の範囲にあります。男鹿半島西方の沖合域 (St. 4～7) で、「やや高い」となっています。
- 50 m層 (P3) 水温は15.1～20.3℃の範囲にあります。男鹿半島西方の沖合域 (St. 6、7) で、「やや高い」となっています。
- 100m層 (P4) 水温は8.6～14.3℃の範囲にあり、男鹿半島西方の沖合域 (St. 6、7) で「やや高い」となっています。また、St. 4付近に冷水域がみられます。
- 200m層 (P5) 水温は2.3～5.8℃の範囲にあります。St. 4付近には、100m層と同様に冷水域がみられます。

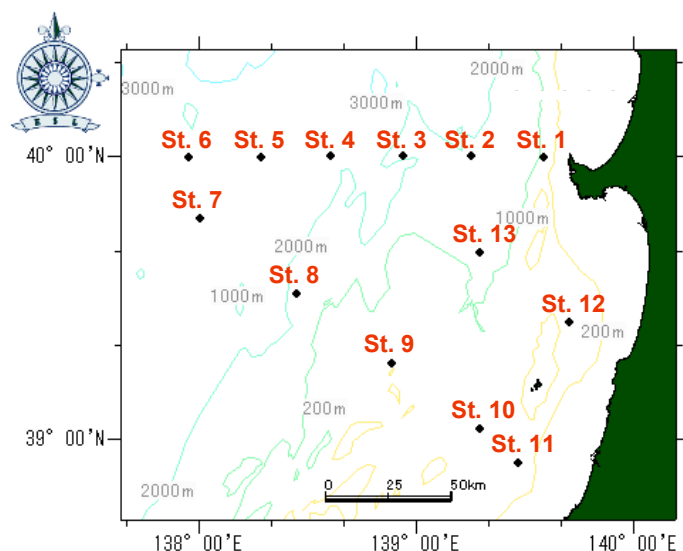


図1 調査船千秋丸による観測定点 (St. 1～13)

表1 水温の評価方法

評価	偏差*
● はなはだ高い	+200以上 (出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200 (出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131 (出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61 (出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131 (出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200 (出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下 (出現確率約20年以上に1回)

* 偏差 = (今月の観測値 - 平年値) / 標準偏差 × 100
ただし、平年値はSt. 1～13が1971～2000年まで、
St. 21～25が1978年～2000年までの平均値

<表層>

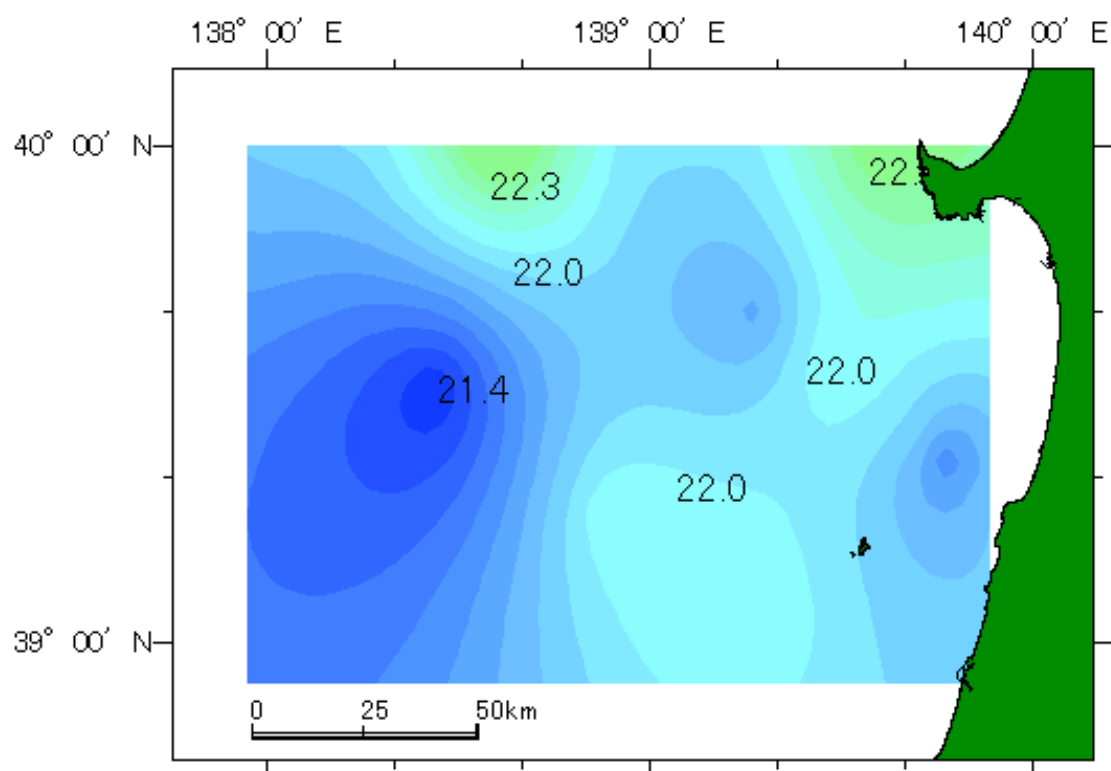


図2 表層の水温分布

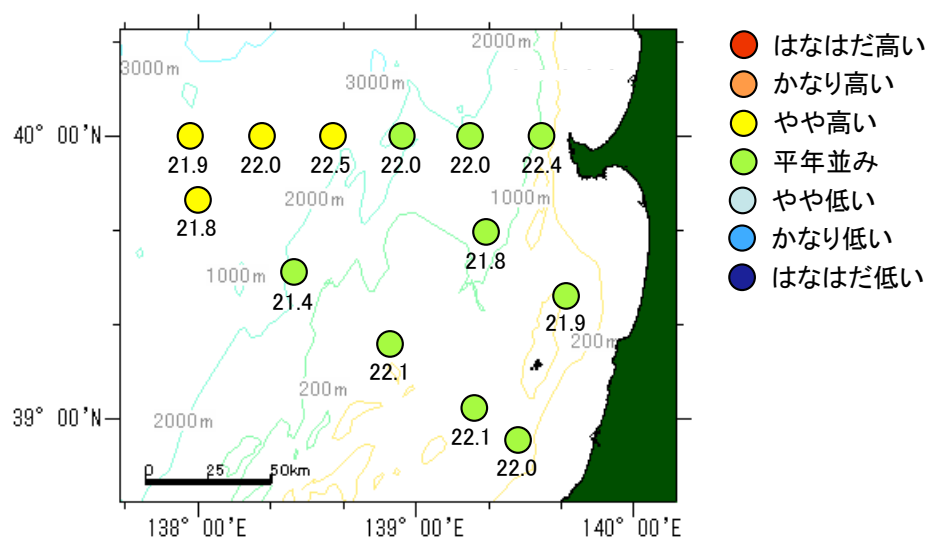


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

< 50m層 >

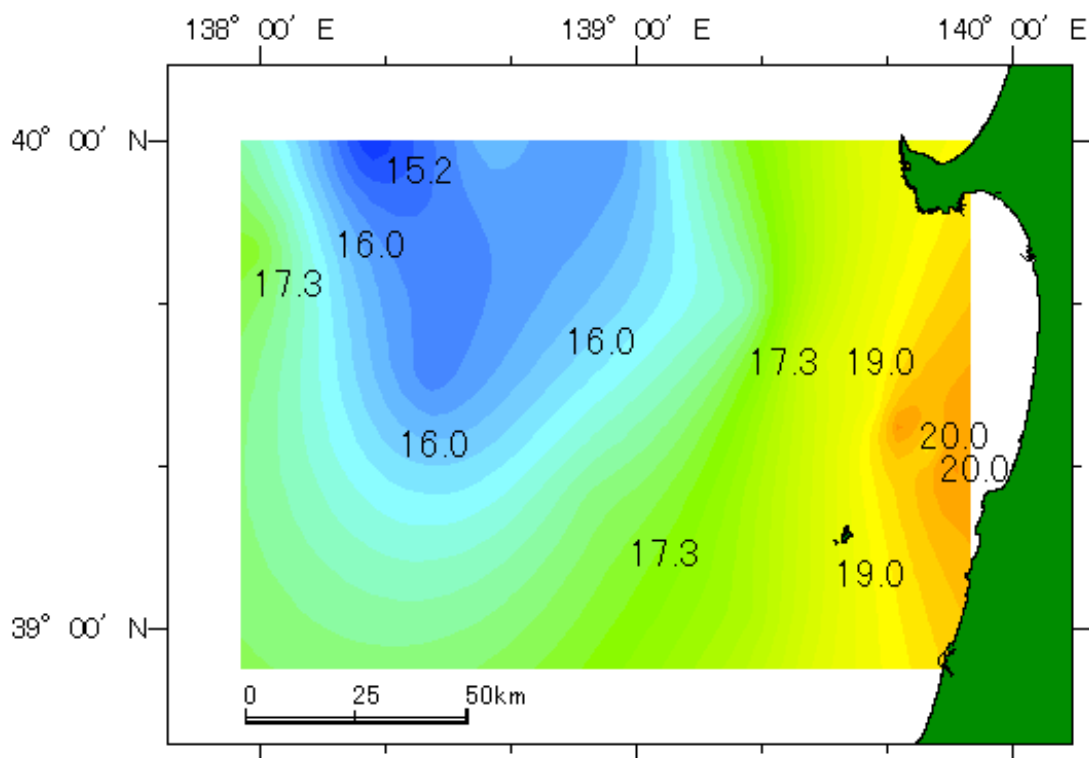


図4 水深50m層の水温分布

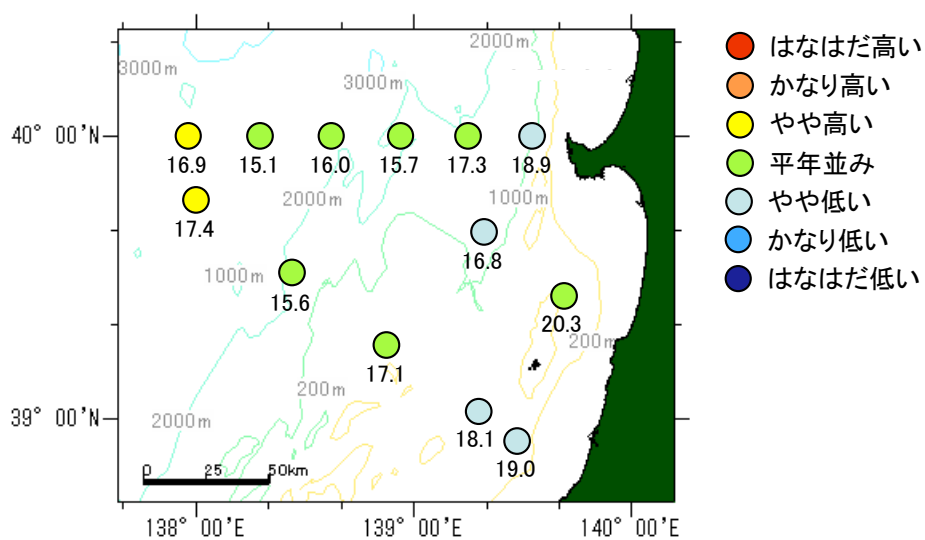


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

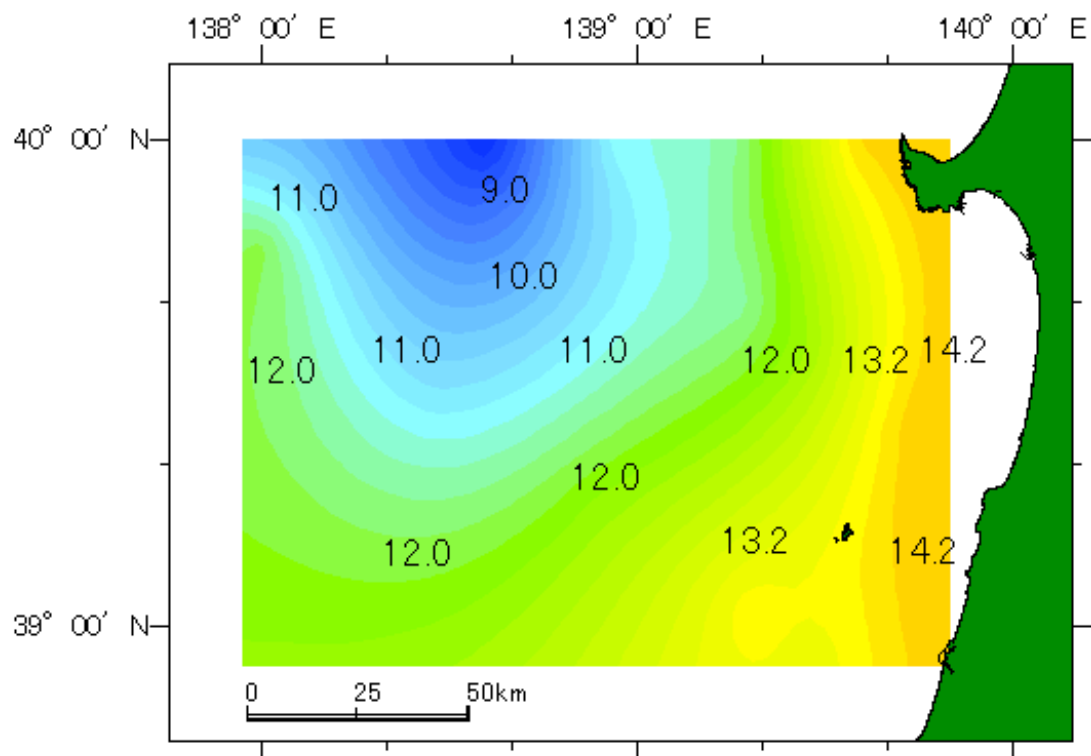


図6 水深100m層の水温分布

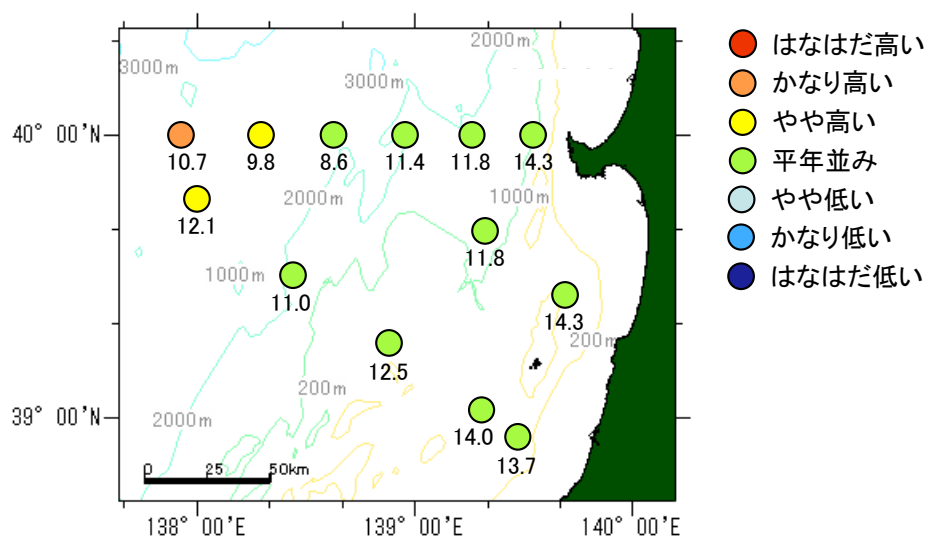


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

< 200m層 >

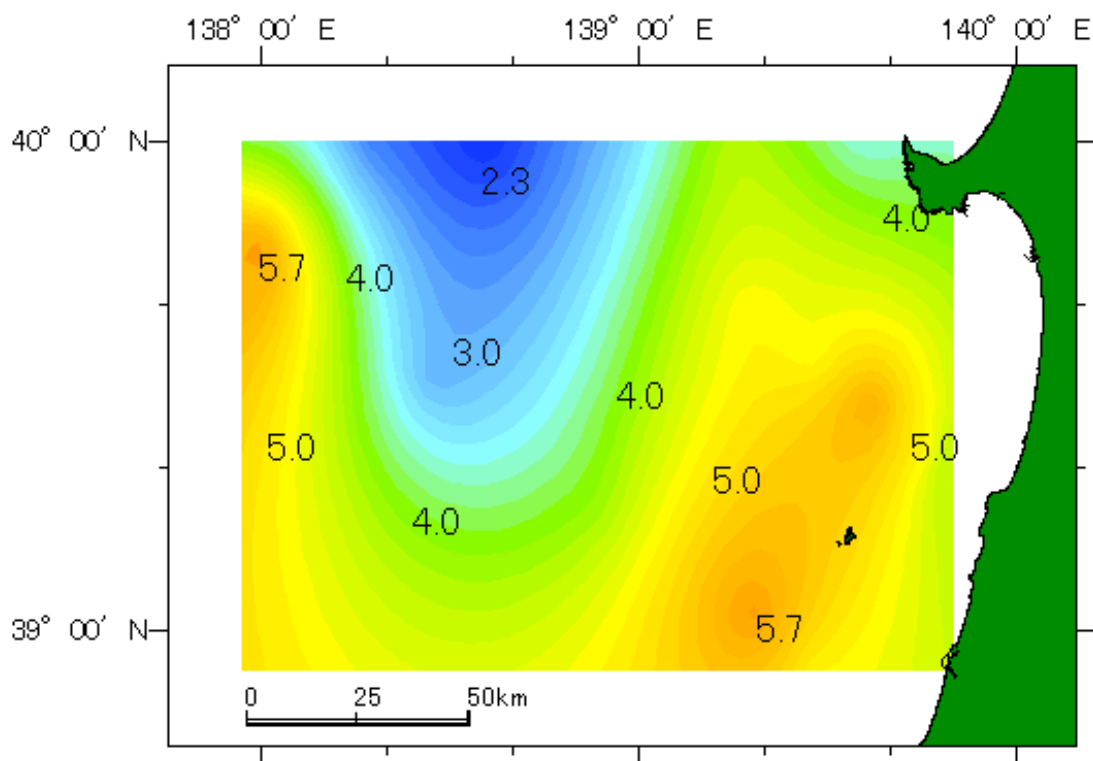


図8 水深200m層の水温分布

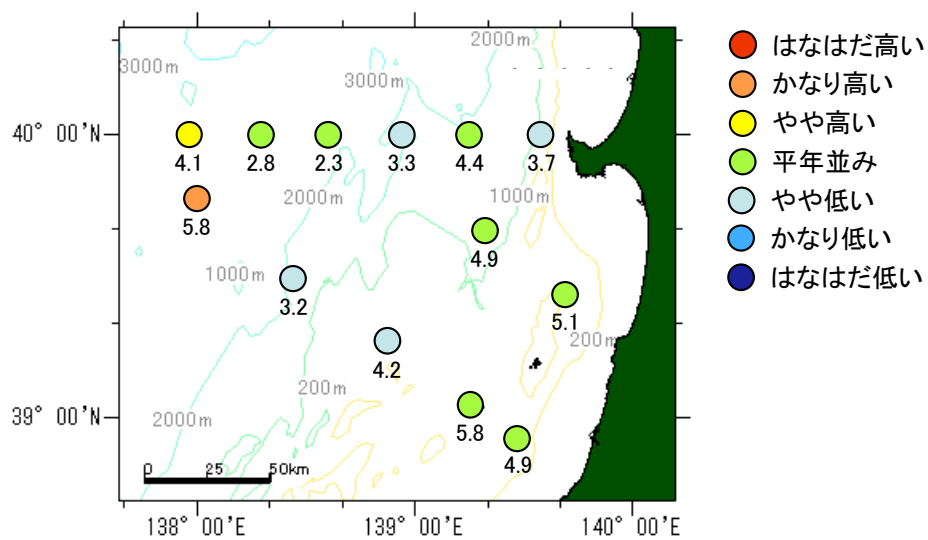


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成21年11月)

漁業調査指導船「千秋丸」が11月9～10日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

- 表 層 (P2) 水温は16.9～18.6℃の範囲にあります。全体的に「平年並み」～「やや低い」となっています。
- 50 m層 (P3) 水温は15.9～18.5℃の範囲にあります。男鹿半島西方の沖合域 (St. 2～4) に冷水域がみられます。
- 100m層 (P4) 水温は11.0～16.3℃の範囲にあり、男鹿半島西方の沖合域 (St. 2～4) には、50m層と同様に冷水域がみられます。
- 200m層 (P5) 水温は2.5～7.0℃の範囲にあります。男鹿半島西方の沖合域 (St. 6、7) で、「かなり高い」となっています。

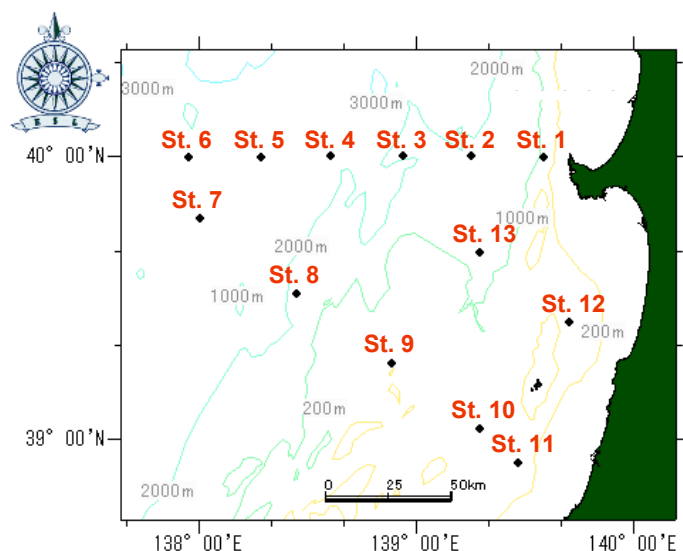


図1 漁業調査指導船千秋丸による観測定点 (St. 1～13)

表1 水温の評価方法

評価	偏差*
● はなはだ高い	+200以上 (出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200 (出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131 (出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61 (出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131 (出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200 (出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下 (出現確率約20年以上に1回)

* 偏差＝(今月の観測値－平年値)/標準偏差×100
ただし、平年値はSt. 1～13が1971～2000年まで、
St. 21～25が1978年～2000年までの平均値

<表層>

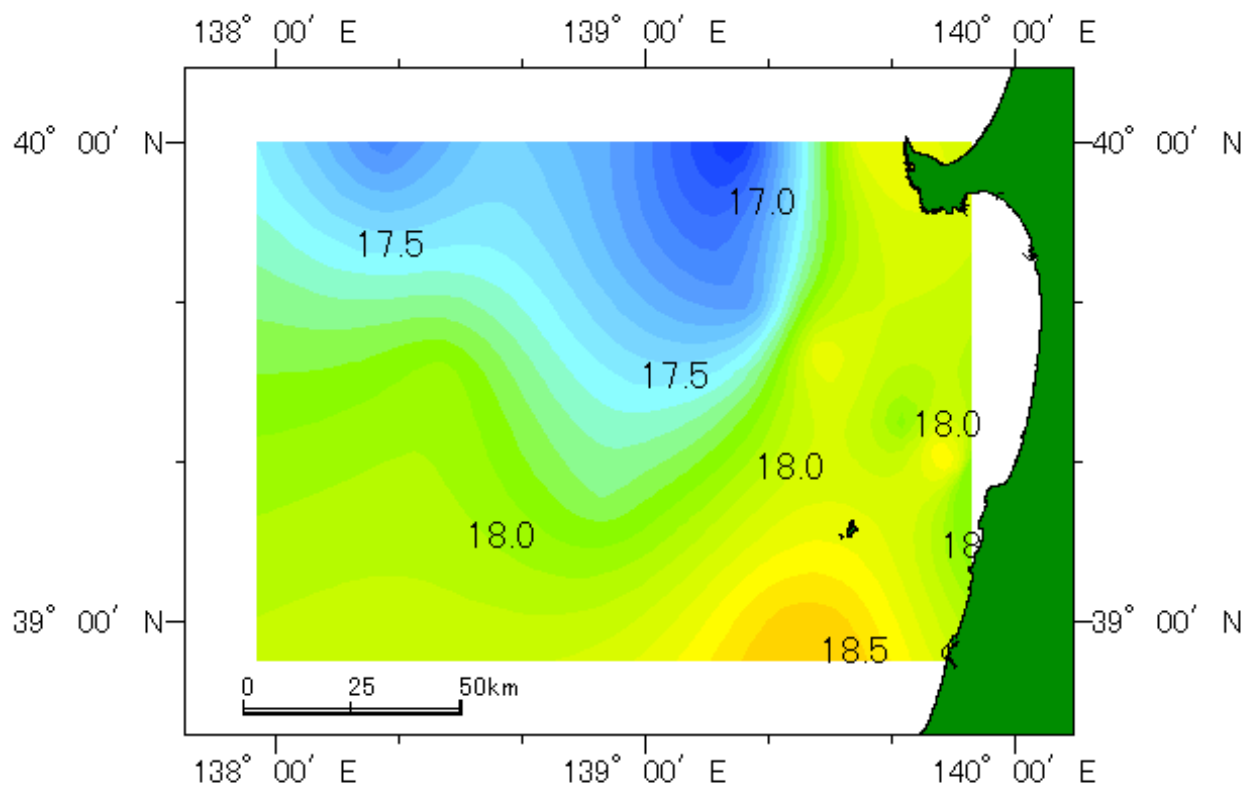


図2 表層の水温分布

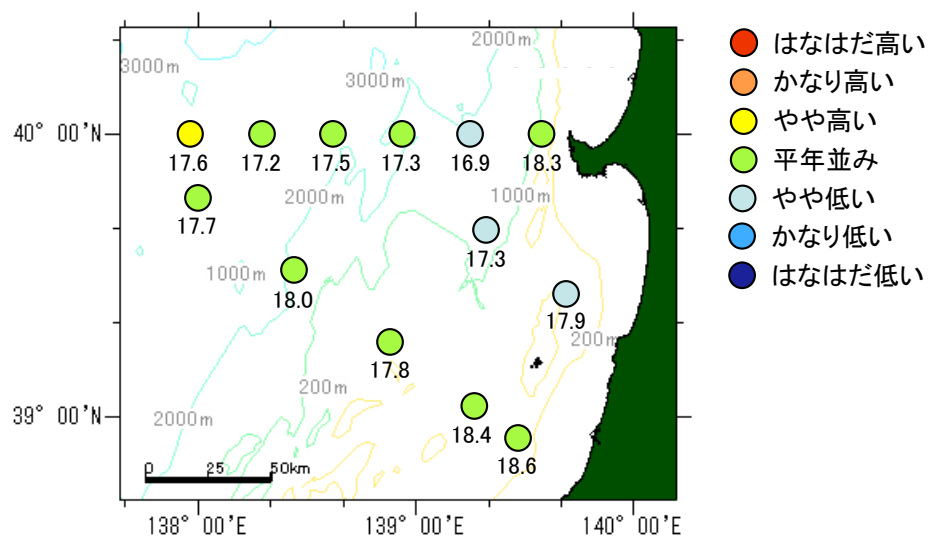


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

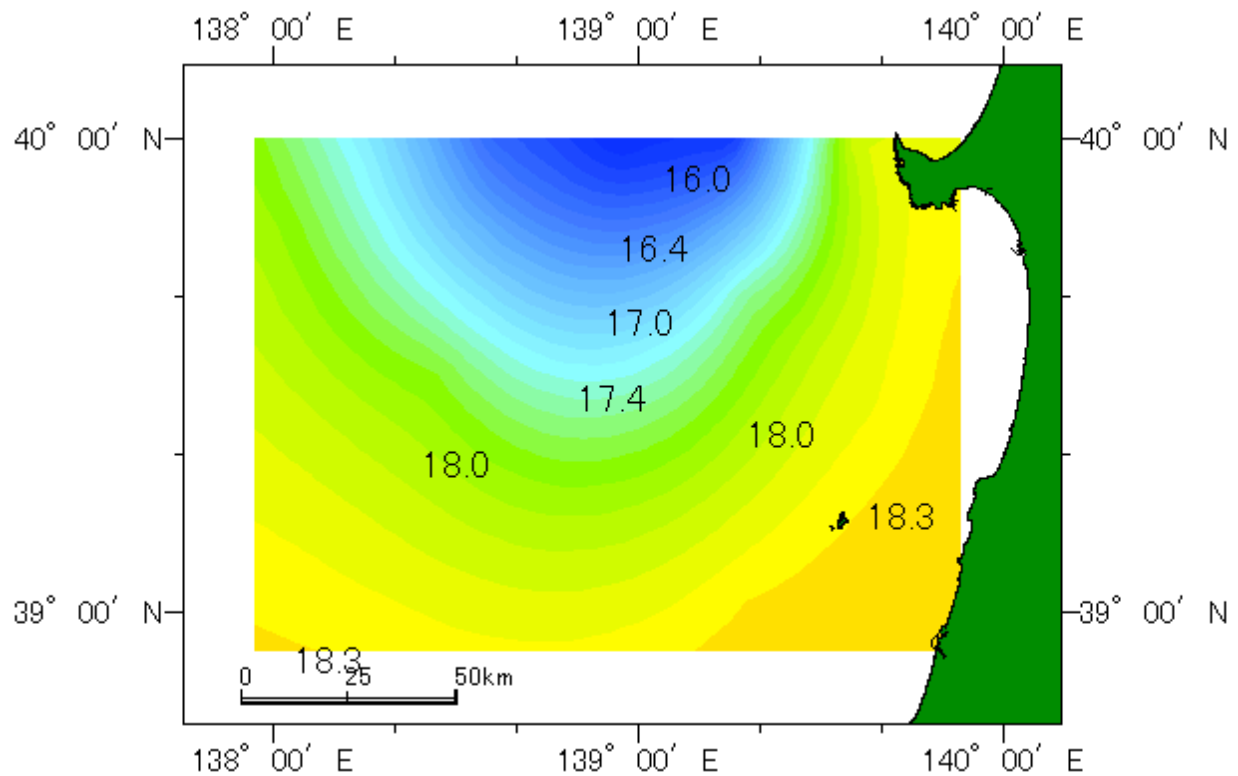


図4 水深50m層の水温分布

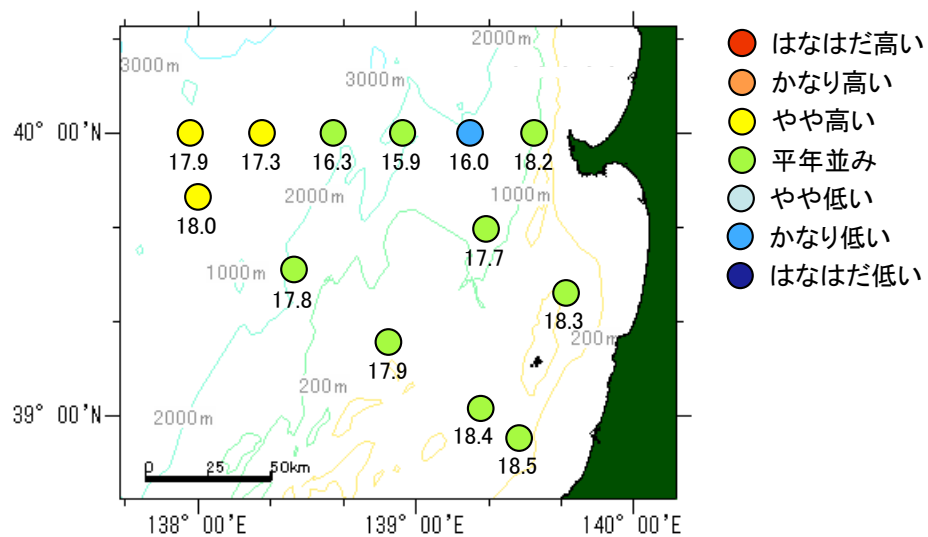


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

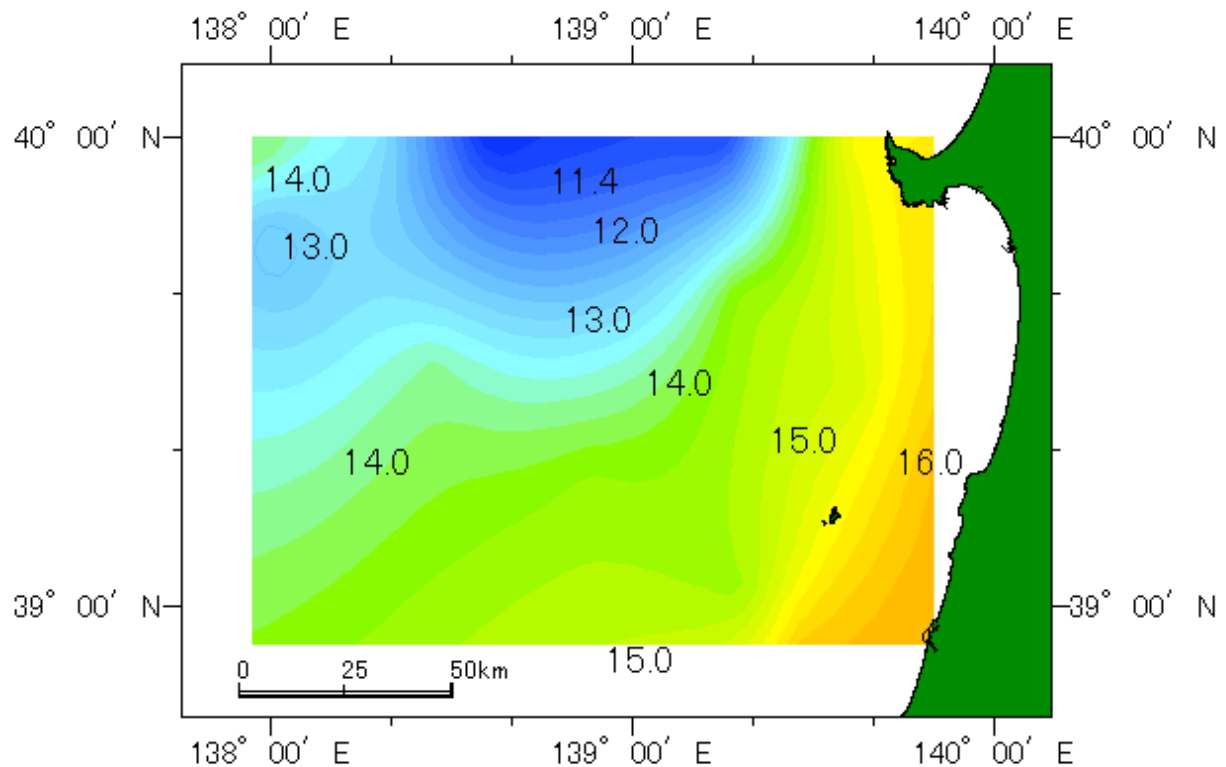


図6 水深100m層の水温分布

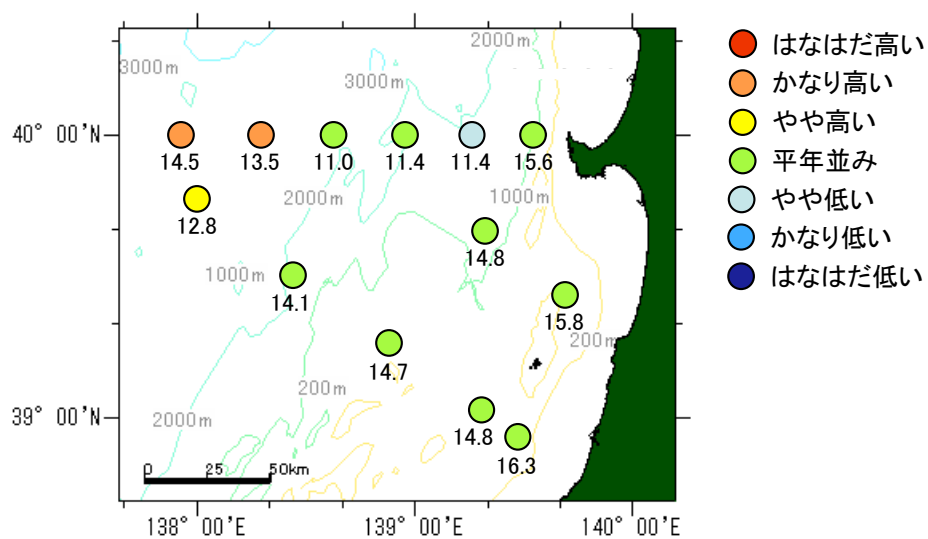


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(℃)

<200m層>

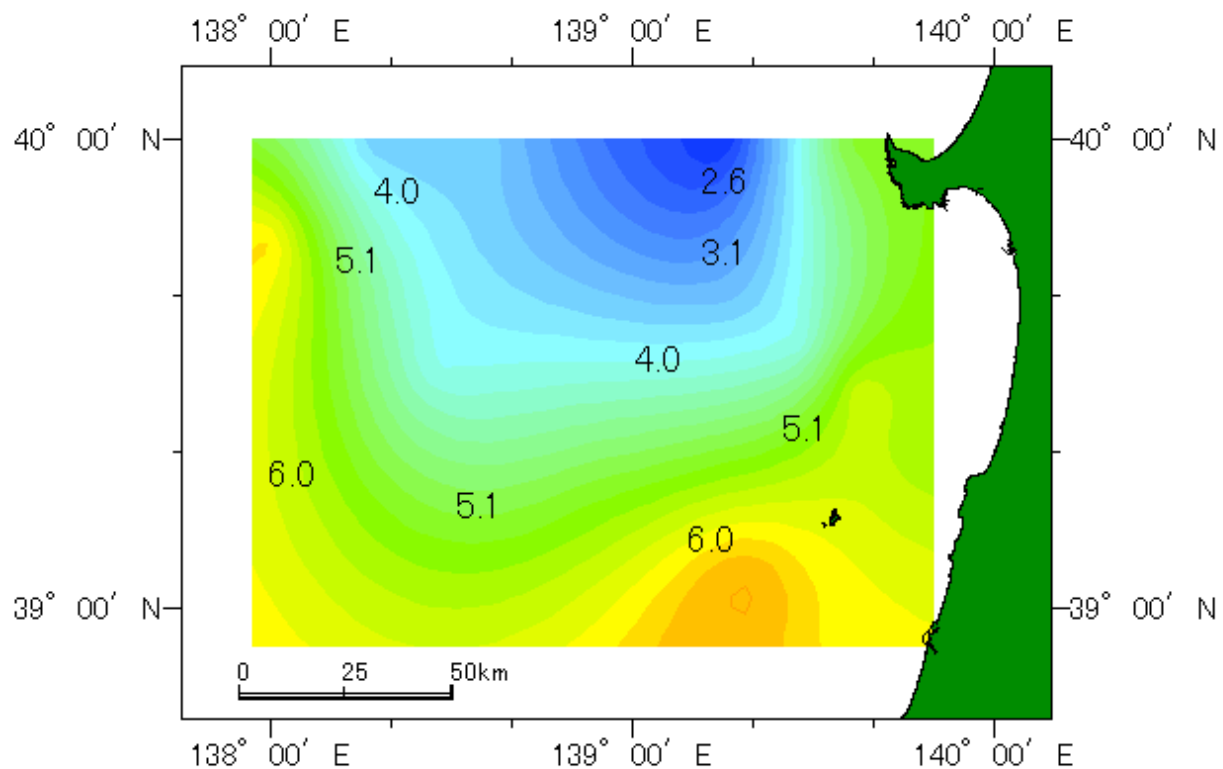


図8 水深200m層の水温分布

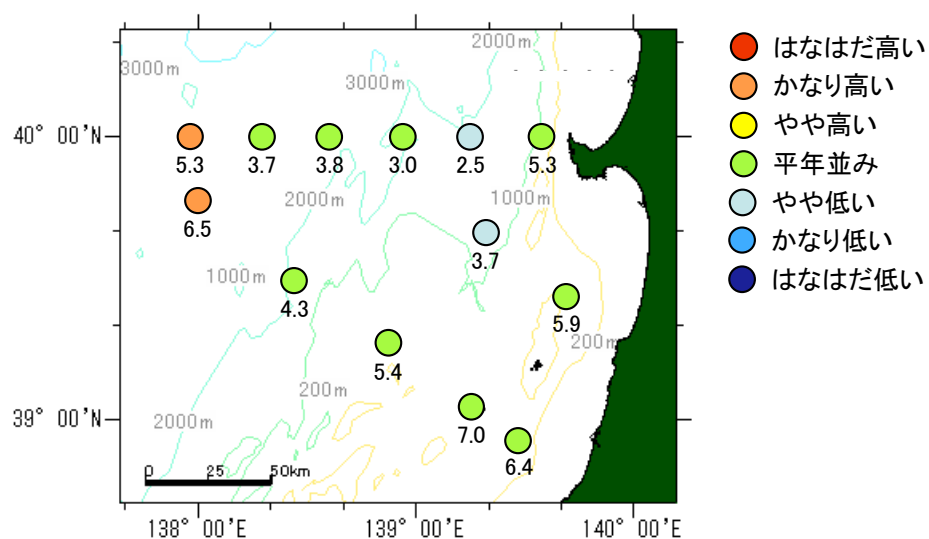


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成22年2月)

漁業調査指導船「千秋丸」が2月1～2日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

- 表 層 (P2) 水温は8.1～10.6℃の範囲にあります。一部の定点 (St. 9、12) で「かなり低い」水温となっています。
- 50 m層 (P3) 水温は6.7～11.5℃の範囲にあります。男鹿半島西方のSt. 3付近に冷水域がみられ、水温も「はなはだ低い」となっています。
- 100m層 (P4) 水温は4.3～11.5℃の範囲にあり、男鹿半島西方のSt. 3～5付近に冷水域がみられます。また、この沖合 (St. 6、7) では、「かなり高い」～「はなはだ高い」水温となっています。
- 200m層 (P5) 水温は1.6～10.2℃の範囲にあります。男鹿半島西方では100m層と同様、St. 3～5で冷水域がみられるとともにSt. 6、7では「かなり高い」～「はなはだ高い」水温となっています。

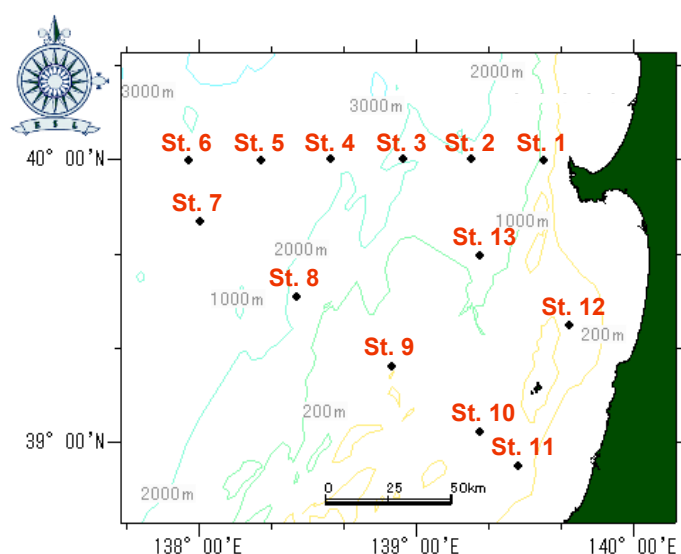


図1 漁業調査指導船千秋丸による観測定点 (St. 1～13)

表1 水温の評価方法

評価	偏差*
● はなはだ高い	+200以上 (出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200 (出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131 (出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61 (出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131 (出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200 (出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下 (出現確率約20年以上に1回)

* 偏差 = (今月の観測値 - 平年値) / 標準偏差 × 100
ただし、平年値はSt. 1～13が1971～2000年まで、
St. 21～25が1978年～2000年までの平均値

<表層>

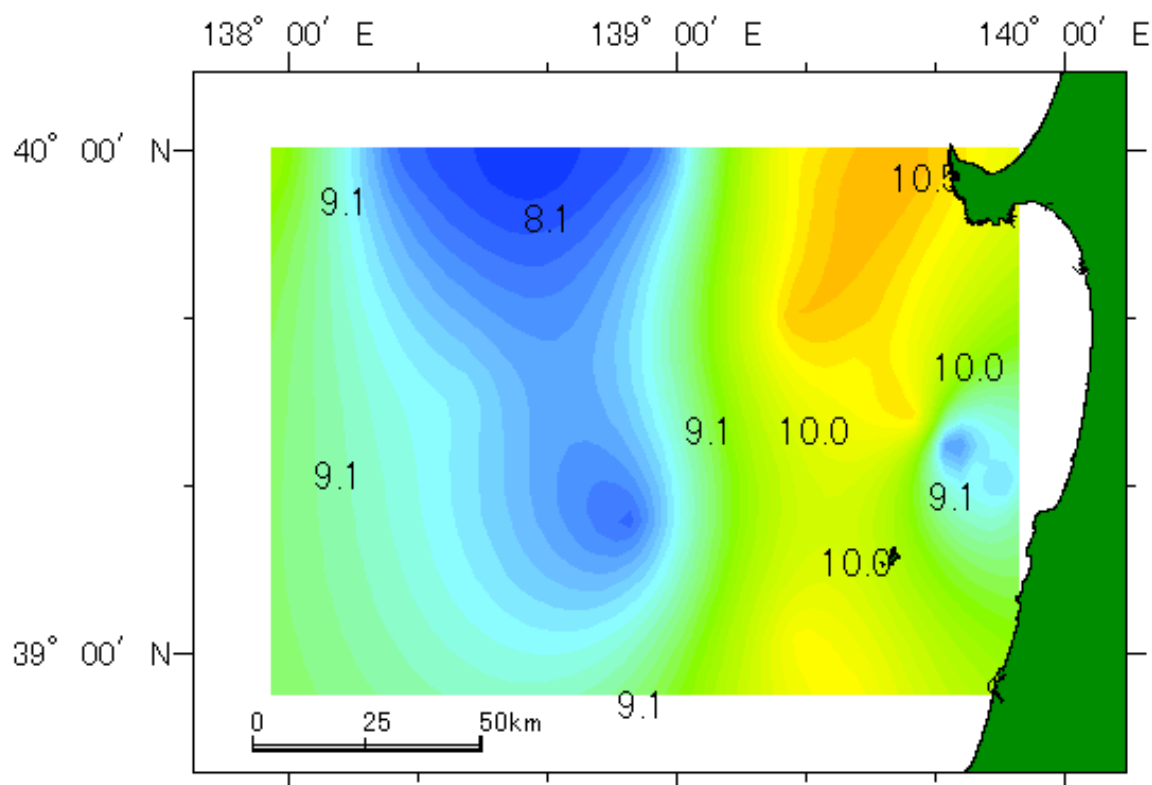


図2 表層の水温分布

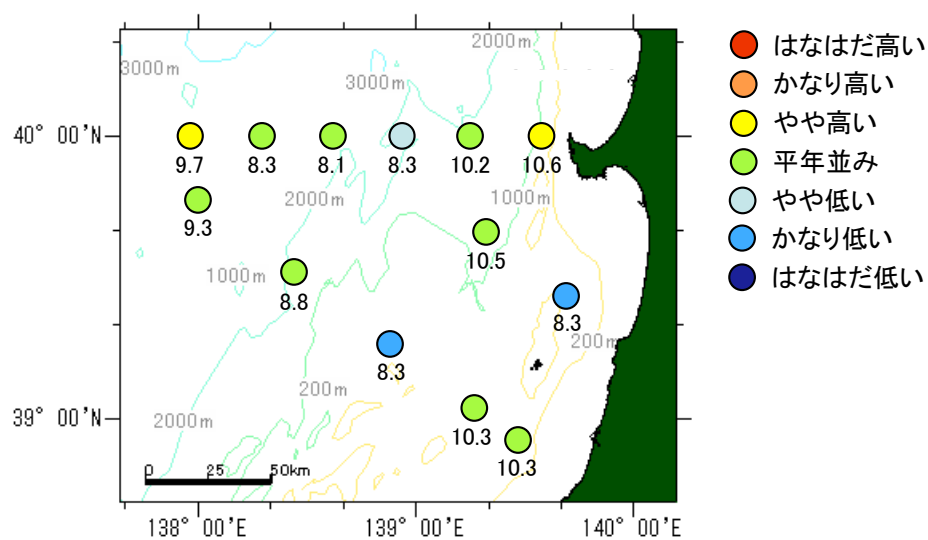


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

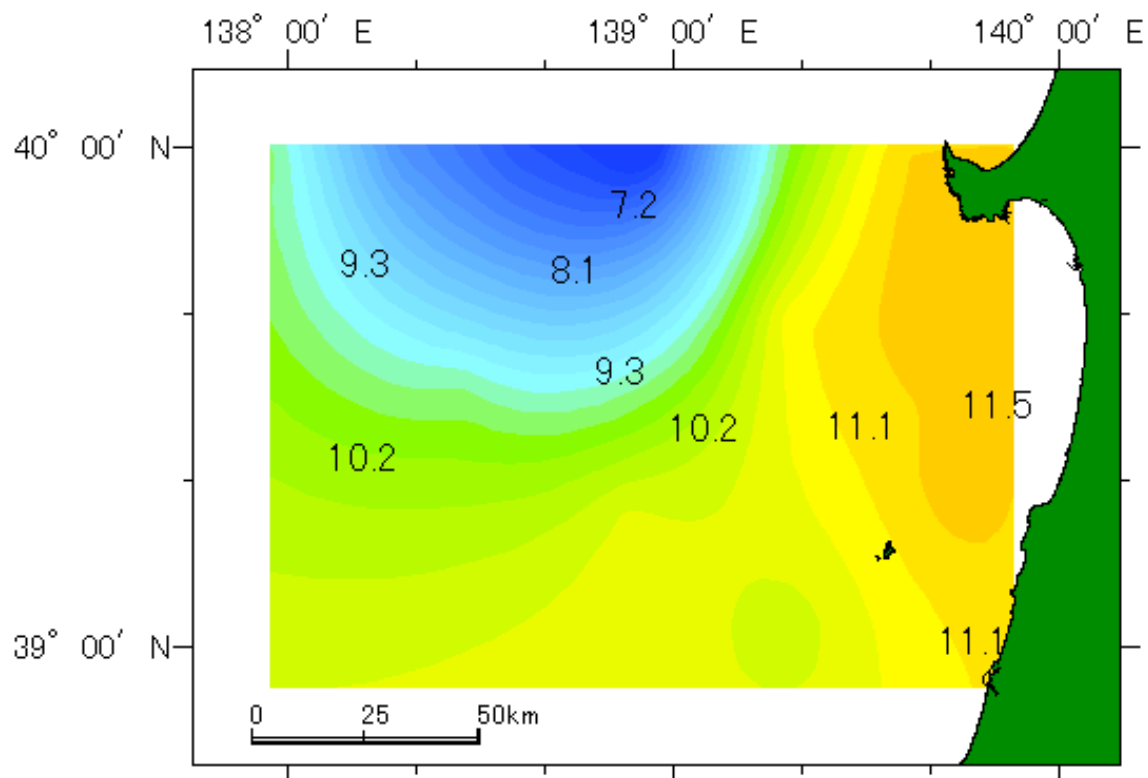


図4 水深50m層の水温分布

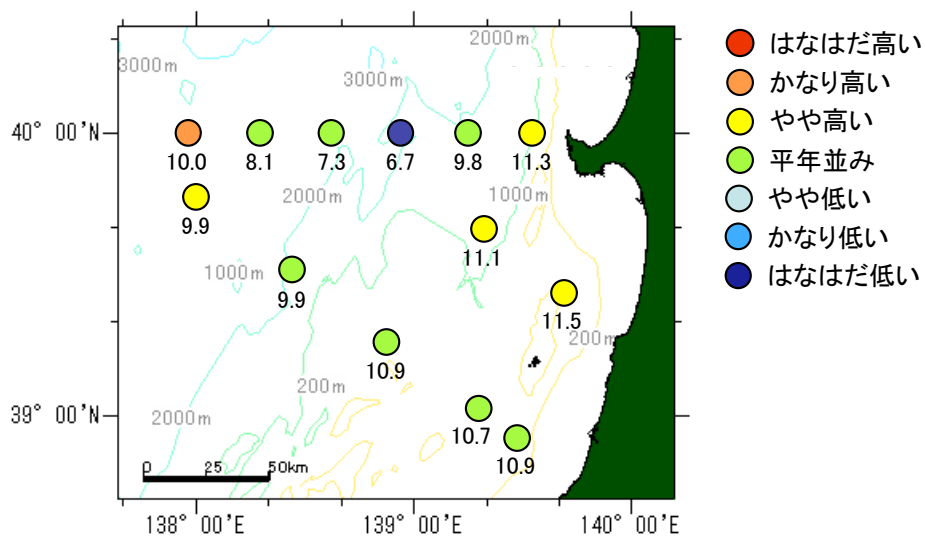


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

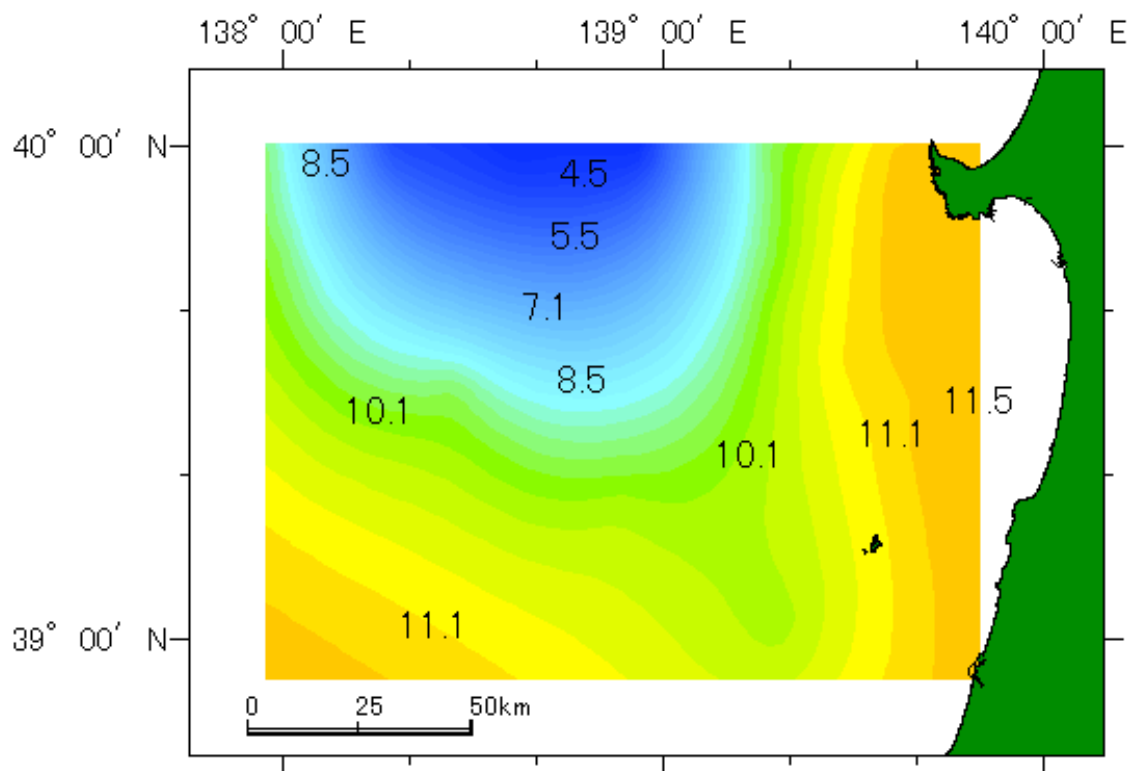


図6 水深100m層の水温分布

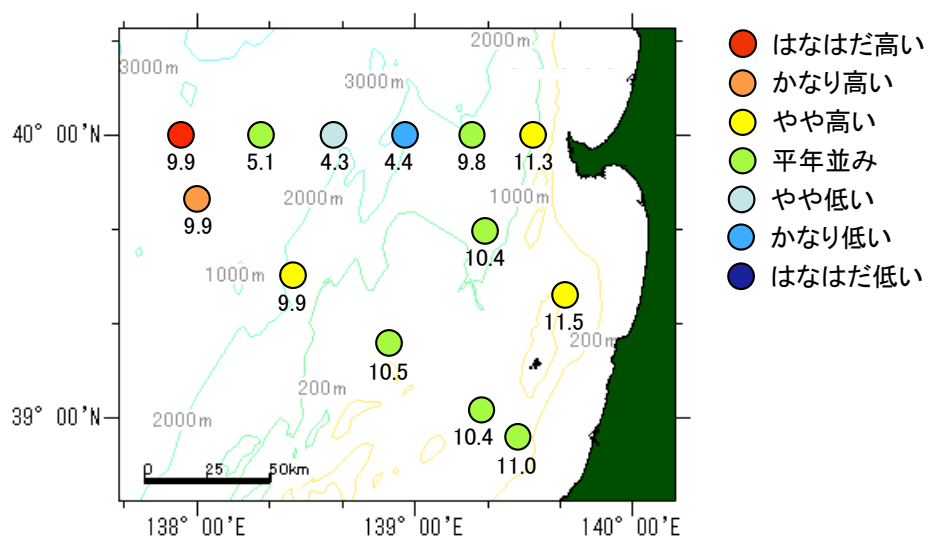


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(℃)

< 200m層 >

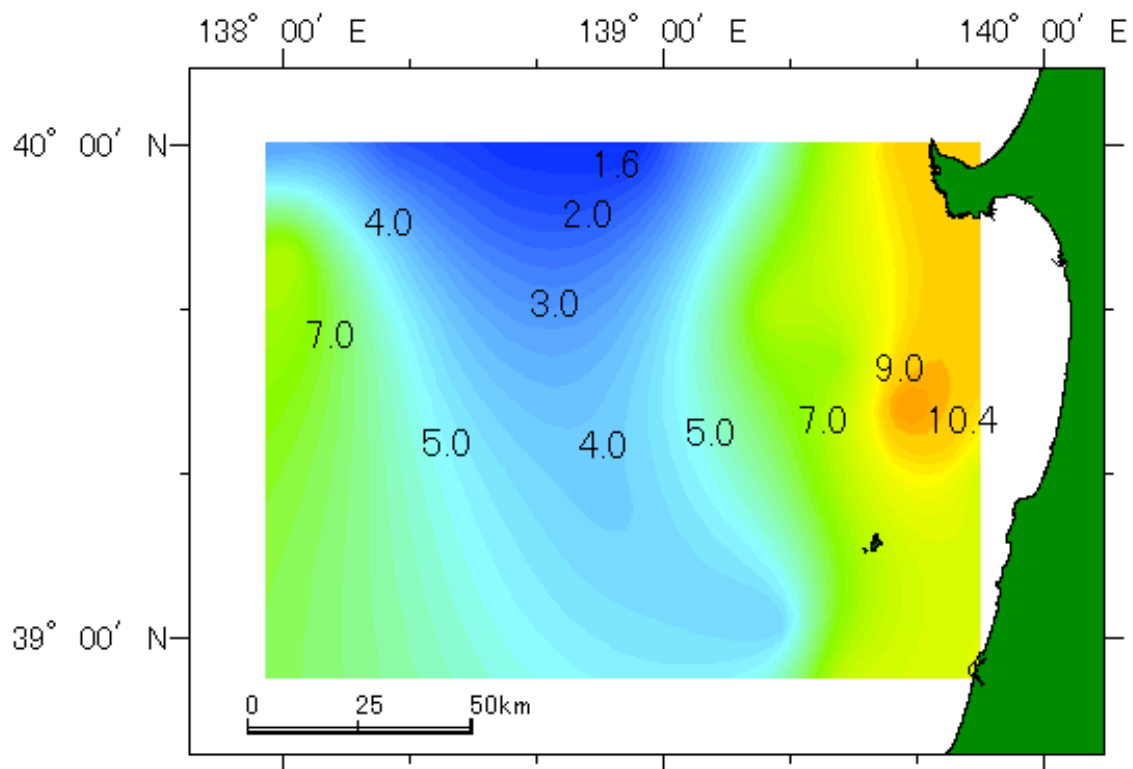


図8 水深200m層の水温分布

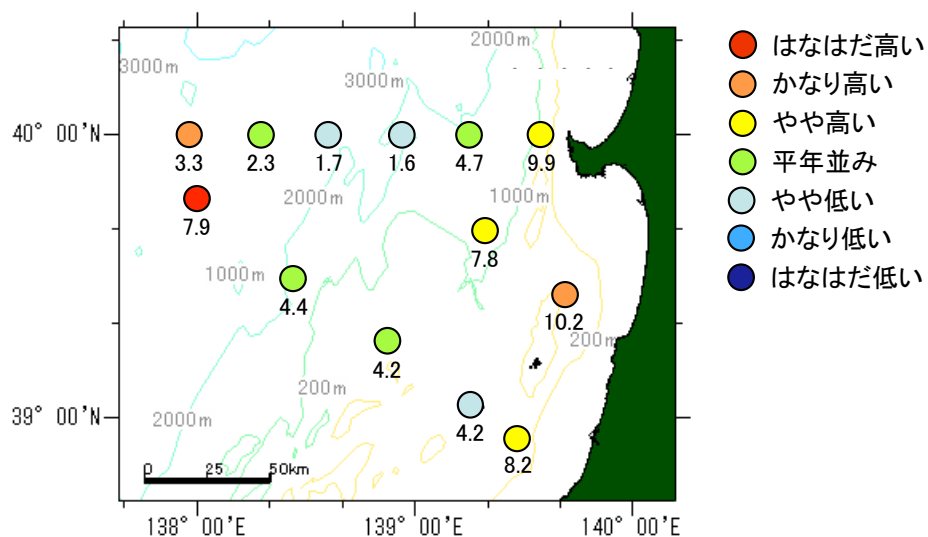


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成22年3月)

漁業調査指導船「千秋丸」が2月23～24日及び3月2日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

表 層 (P2) 全体的に「やや高い」水温となっています。

50 m層 (P3) 全体的に「やや高い」水温となっていますが、県南部の一部の海域 (St. 12) では、「はなはだ低い」水温となっています。

100m層 (P4) 男鹿半島の沖合 (St. 4～7) で、「かなり高い」～「はなはだ高い」水温となっています。また県南部では、50m層と同様に St. 12 で「はなはだ低い」水温です。

200m層 (P5) 100m層と同様の傾向がみられ、男鹿半島沖 (St. 4～7) で「かなり高い」～「はなはだ高い」、県南部の St. 12 で「はなはだ低い」水温となっています。

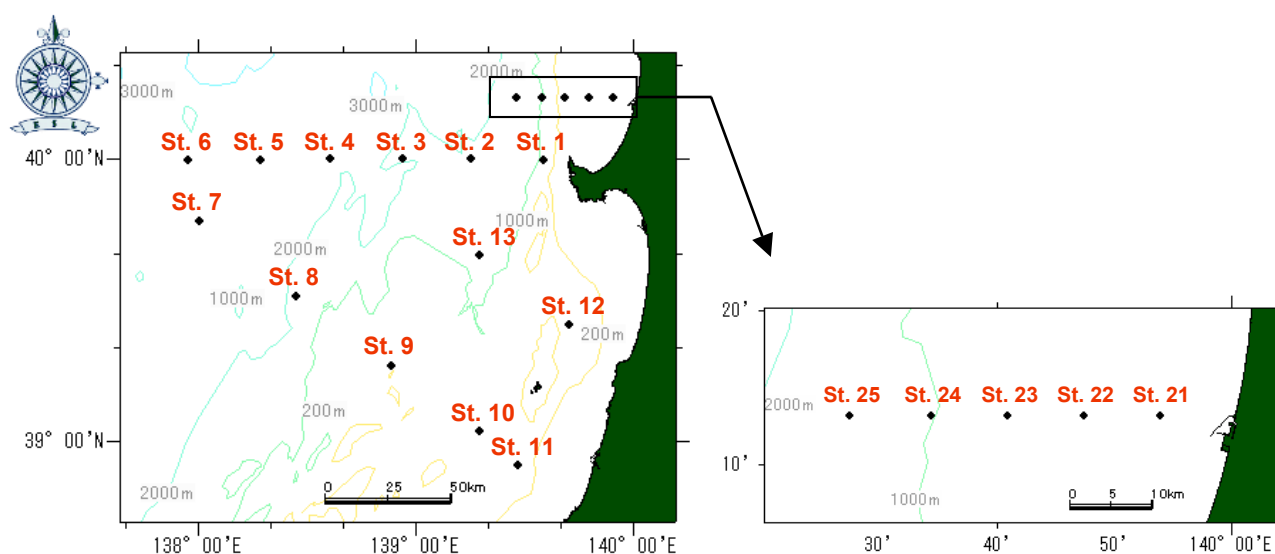


図1 調査船千秋丸 (St. 1～13) 及び第二千秋丸 (St. 21～25) による観測定点

表1 水温の評価方法

評価	偏差*
● はなはだ高い	+200以上 (出現確率約20年以上に1回)
● かなり高い	+131～200 (出現確率約10年に1回)
● やや高い	+61～131 (出現確率約4年に1回)
● 平年並み	±61 (出現確率約2年に1回)
● やや低い	-61～131 (出現確率約4年に1回)
● かなり低い	-131～200 (出現確率約10年に1回)
● はなはだ低い	-200以下 (出現確率約20年以上に1回)

* 偏差 = (今月の観測値 - 平年値) / 標準偏差 × 100
ただし、平年値は St. 1～13 が 1971～2000 年まで、
St. 21～25 が 1978 年～2000 年までの平均値

<表層>

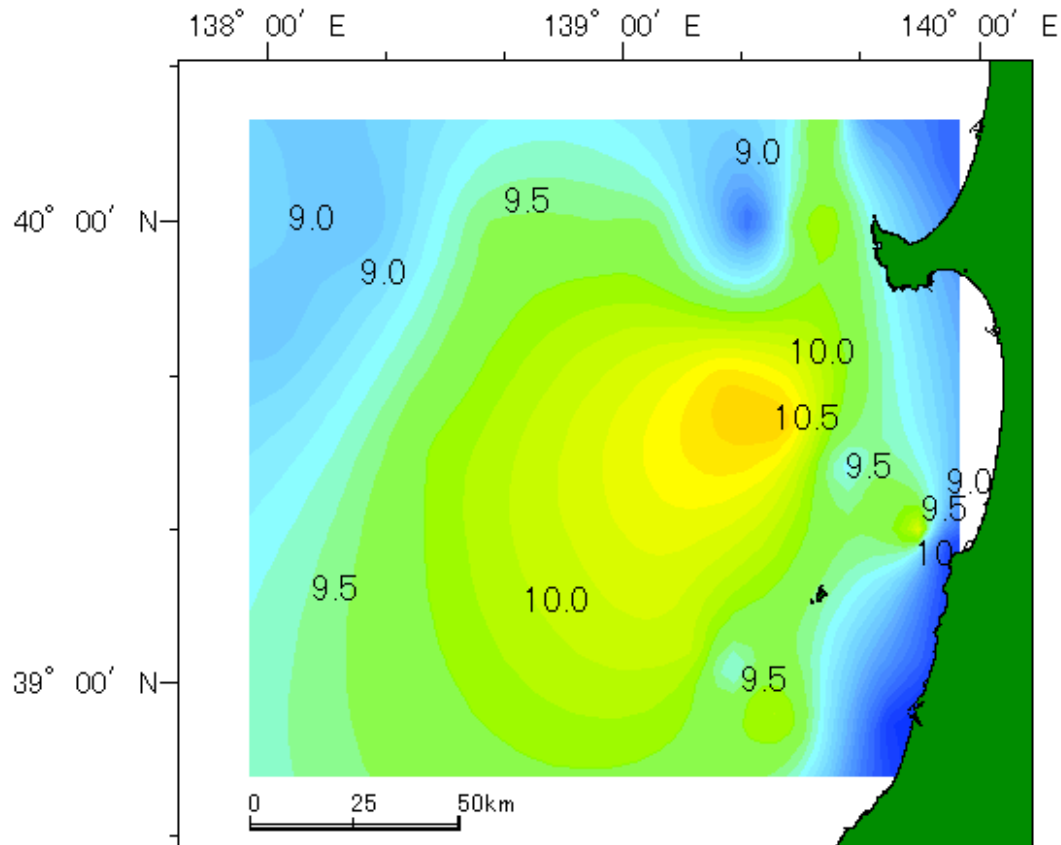


図2 表層の水温分布

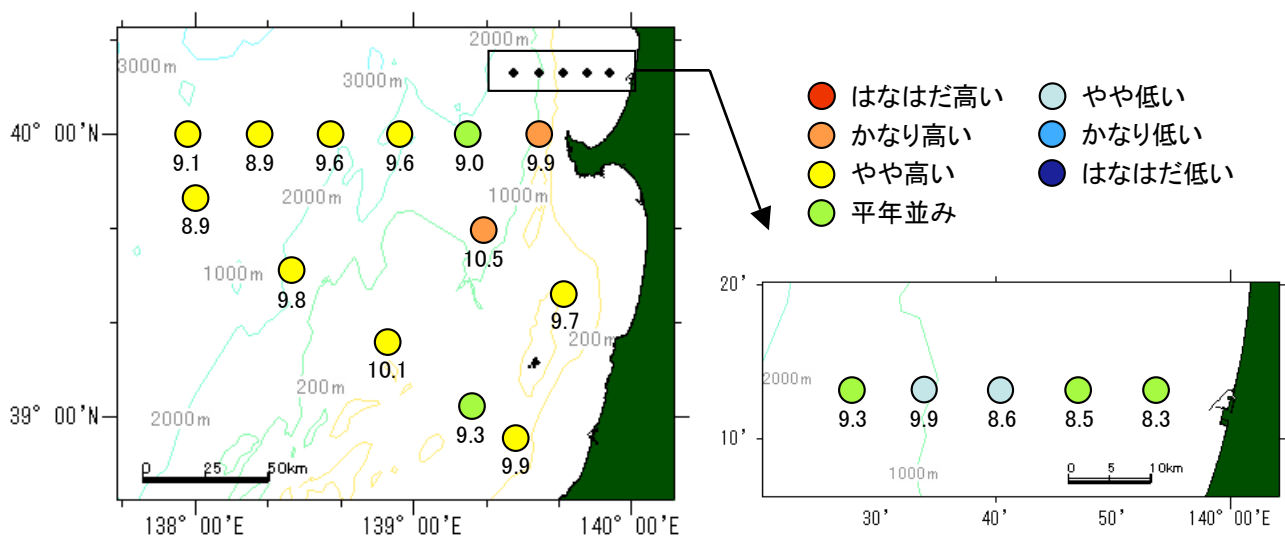


図3 表層の水温評価と観測値(°C)

<50m層>

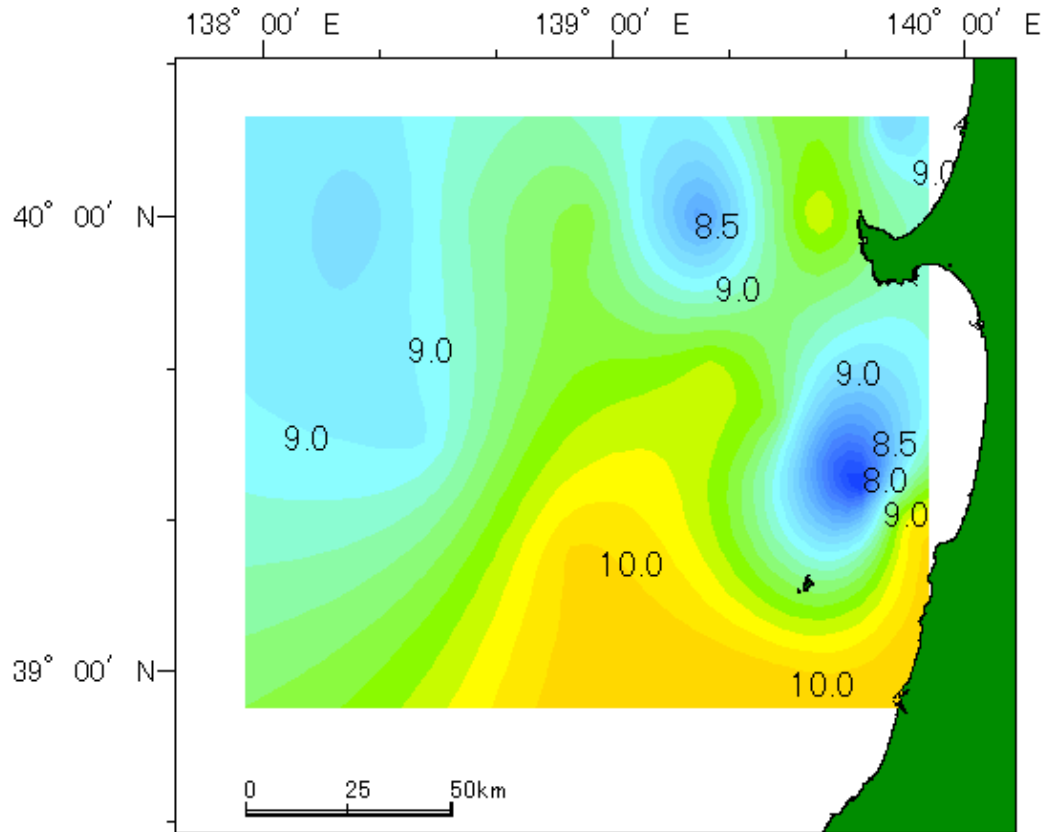


図4 水深50m層の水温分布

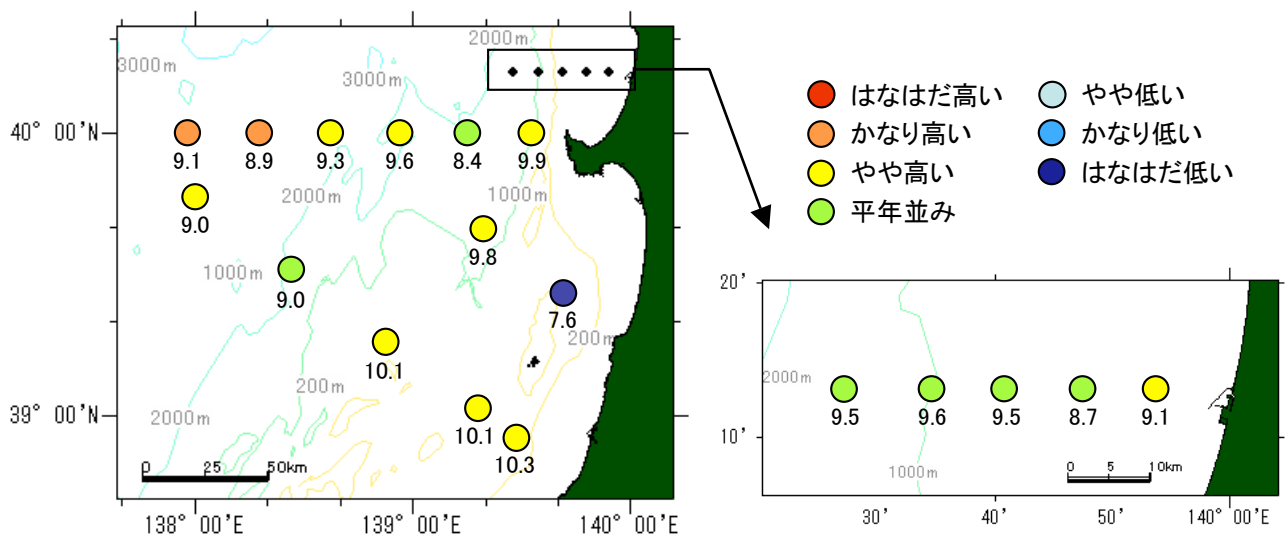


図5 水深50m層の水温評価と観測値(°C)

<100m層>

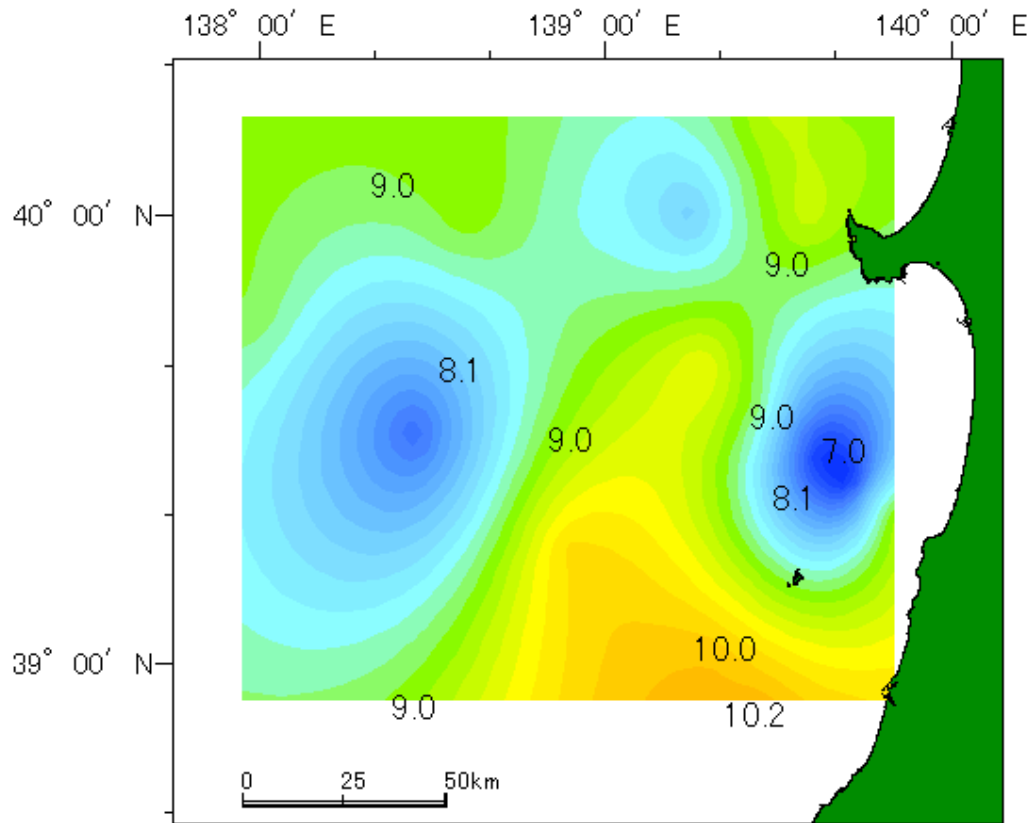


図6 水深100m層の水温分布

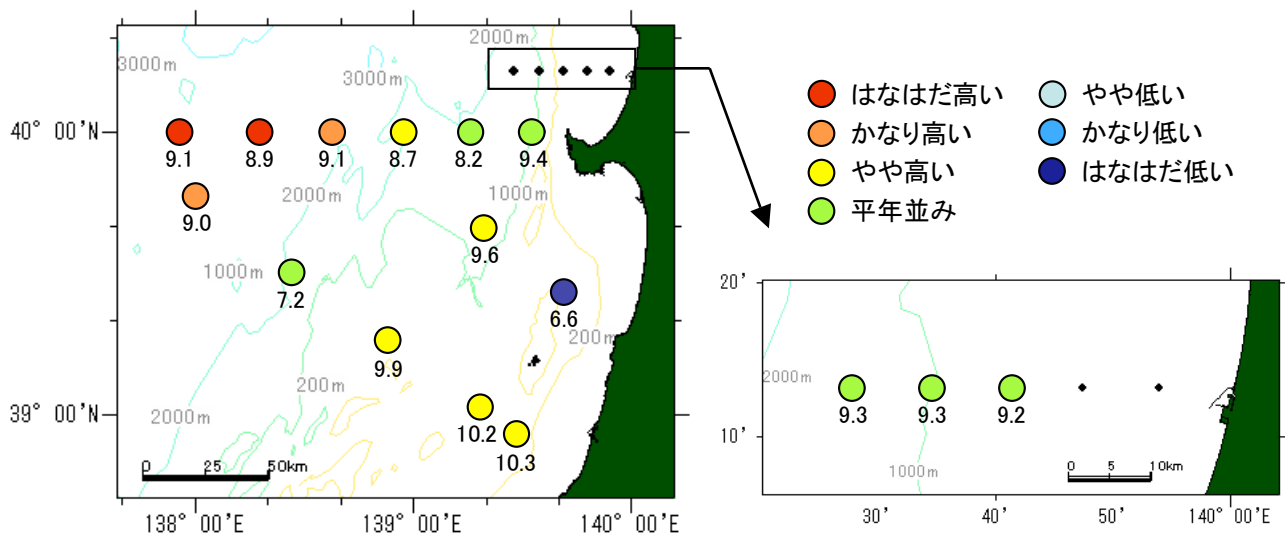


図7 水深100m層の水温評価と観測値(°C)

<200m層>

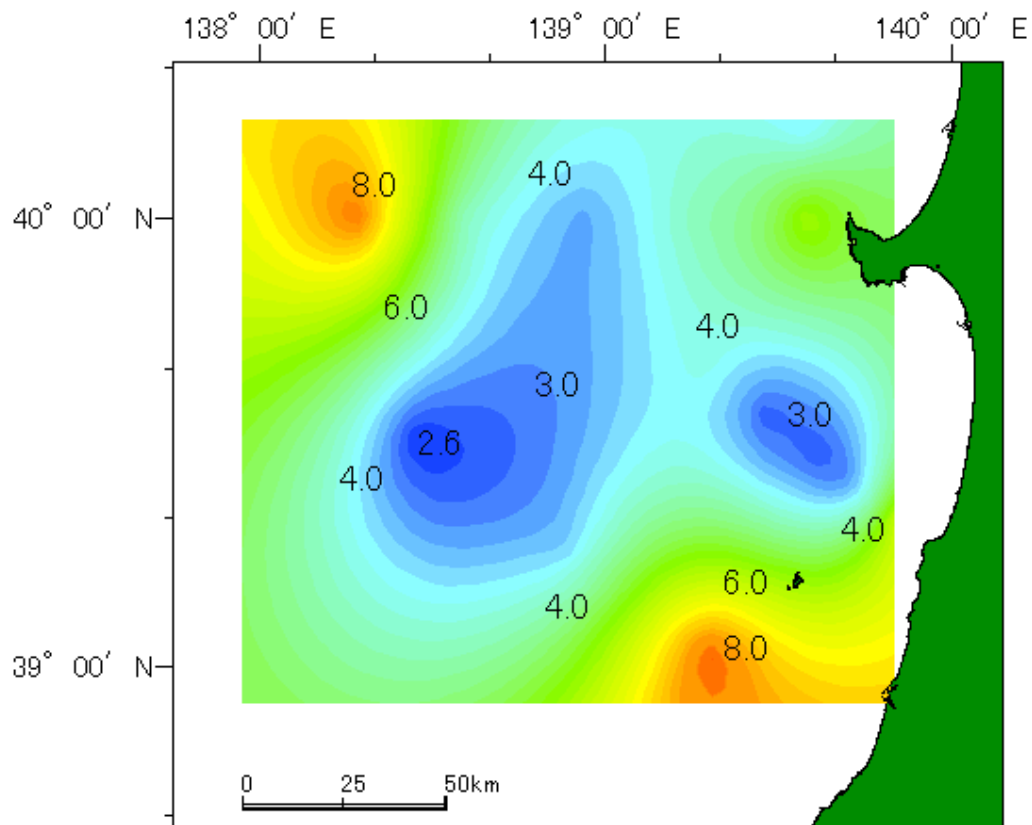


図8 水深200m層の水温分布

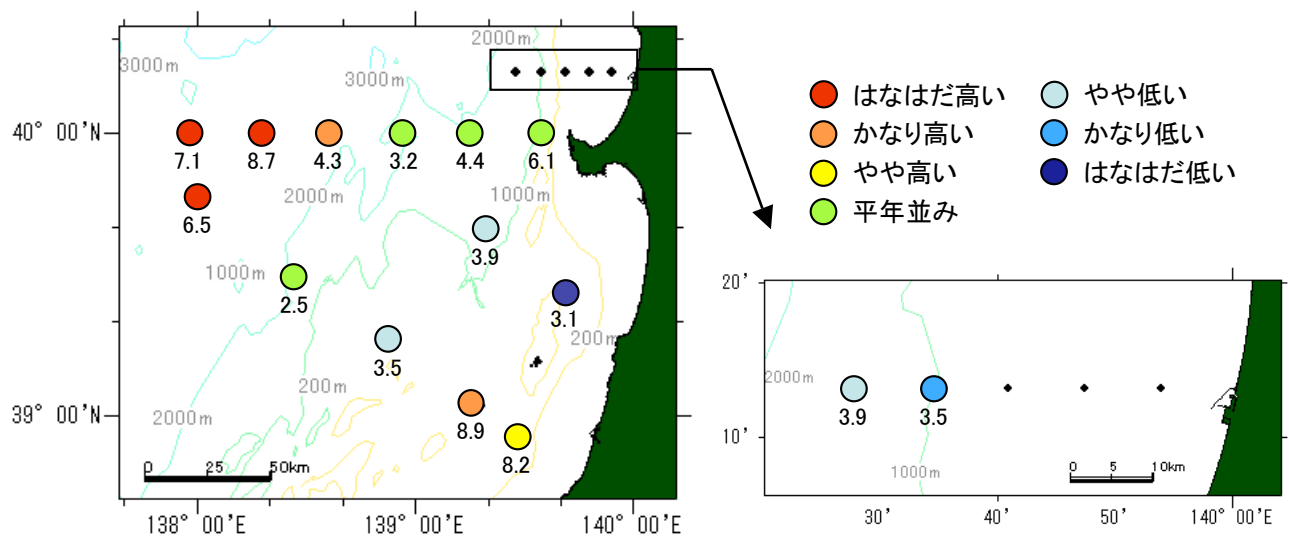


図9 水深200m層の水温評価と観測値(°C)